

ナレーション	秋 週1回 2単位
担当者：川野 一字	
講義の目標及び概要	
1 内容 文章をいかに正確に分かりやすく、伝えるかの訓練のための実践講座である。音声表現に欠かせない発音・発生、アクセント、イントネーションの基礎をしっかりと学び、随筆、ニュースなどで練習を重ねながら、レベルの高いナレーション表現を目指す。	
2 カリキュラム上の位置づけ 広くコミュニケーション論の一環であり、文章を伝える音声表現の基礎である。	
3学びの意義と目標 ニュース、お知らせ、広報アナウンス等幅広い応用分野の基礎を学びながら一定レベル以上の伝え方を目指す。	
評価方法	
授業での表現 最終授業での課題のこなしかた 出席日数を考慮して評価するが、課題の成績が6割を占める。	
教科書	
プリントを配布する	

日本教育史	春 秋 週1回 2単位
担当者：石津 靖大	
講義の目標及び概要	
1. 内容 日本教育史の概観を、教育思想と教育制度と学校教育の領域をとおして展開することができるように、講義内容を用意している。しかし、教育の歴史は、その国の政治、経済、文化などの社会的状況と大きく関連している。そこで、講義の内容は、教育の思想や制度、学校教育だけでなく、広く日本人の形成にかかわったと考えられるところの、社会的、文化的な領域をも取りあつかうこととする。	
2. カリキュラム上の位置づけ 基本的な日本教育史の概説で、学科の専門科目ならびに教職の教養科目である。	
3. 学びの意義と目標 日本教育史における基本的事項の理解が得られることを目指す。そして、それらの事項の整理をすることによって、日本の教育の流れの特色を知ることを目指す。	
評価方法	
評価の割合は、定期試験70%、出席状況30%である。	
教科書	
プリントを配布する	

日本キリスト教史 A	春 週1回 2単位
担当者：柳田 洋夫	
講義の目標及び概要	
〈内容〉日本のキリスト教の歴史について、特に明治以降のプロテスタントに重点を置きつつ、基礎的な事項を学ぶ。春学期は総体的・通時的な把握を試みる。	
〈カリキュラム上の位置づけ〉1年次におけるキリスト教概論をふまえつつ、日本における思想や文化についてキリスト教的視点から学ぶ基礎・選択科目。	
〈学びの目標〉日本におけるキリスト教の大概について当時の社会・思想状況と併せて理解するとともに、宗教や信仰とは何かについて自ら考え実践に生かすことができるようになることを目指す。	
〈参考文献〉 鶴沼裕子『史料による日本キリスト教史』（聖学院大学出版会） 海老沢有道『日本キリスト教史』（日本キリスト教団出版局） 土肥昭夫『日本プロテスタント・キリスト教史』（新教出版社）	
評価方法	
出席・参加度40%、試験40%、礼拝レポート20%。出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合は評価の対象としない。	
教科書	
プリントを配布する	

日本キリスト教史 B	秋 週1回 2単位
担当者：柳田 洋夫	
講義の目標及び概要	
〈内容〉日本のキリスト教の歴史について、特に明治以降のプロテスタントに重点を置きつつ、基礎的な事項を学ぶ。秋学期は代表的キリスト者を取り上げ、その生涯・信仰・思想について学ぶ。	
〈カリキュラム上の位置づけ〉1年次におけるキリスト教概論をふまえつつ、日本における思想や文化についてキリスト教的視点から学ぶ基礎・選択科目。	
〈学びの目標〉日本におけるキリスト教の大概をについて当時の社会・思想状況と併せて理解するとともに、宗教や信仰とは何かについて自ら考え実践に生かすことができるようになることを目指す。	
〈参考文献〉 鶴沼裕子『近代日本キリスト者の信仰と倫理』（聖学院大学出版会） 『近代日本のキリスト教思想家たち』（日本基督教団出版局）	
評価方法	
出席・参加度40%、試験40%、礼拝レポート20%。出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合は評価の対象としない。	
教科書	
プリントを配布する	

日本経済論	秋 週2回 4単位
担当者：大森 達也	
講義の目標及び概要	
<p>1980年代、歴史上類を見ない経済発展を成し遂げてきた戦後日本経済は、その経済力に見合った責任を果たすように国際社会より求められていた。しかし、「失われた10年」と呼ばれるように、1990年代には、まさに過去の成功の故に、制度的に疲弊し、矛盾を露呈するにいたった。21世紀に入り、中国の急速な発展、国際通貨としてのユーロの台頭、さらには、サブプライム問題以降において世界経済は回復基調にあるにもかかわらず、そうした波にも乗り遅れてきている様子が見受けられるのが、日本経済といえよう。</p> <p>日本経済は、今後どのような方向に進んでいくのだろうか？あるいは、どのように変化するのだろうか？21世紀を生きる学生諸君にとって、日本経済にたいする的確な現状認識と将来的な展望を持つことは、非常に重要であることは言うまでもない。本講義では、戦後の日本経済の成立、その発展の軌跡、経済政策あるいは体制上の特徴などについての講義を通じ、日本経済の現状と将来的な展望を得ることを目的とする。</p>	
評価方法	
<p>(1) 中間及び期末の筆記試験（それぞれ35%） (2) 1,200字程度のブックレポート3回（各10%）</p>	
教科書	
授業の中で指示する	

日本語1(基礎文法) A	春 週1回 1単位
担当者：大越 貴子/川口 さち子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 基礎的な日本語文法を復習し、より上級の文脈において運用できるようにする。 (1) 文法の用法を理解し、用法練習をする。 (2) 学んだ文法を使用した表現の練習をする。 (3) 各課ごとに文法の確認の小テストを行う。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ 日本語を母語としない外国人留学生のための授業。大学の講義を受ける上で不可欠な四技能の基礎となる文法能力の養成を目的とする。 3. 学びの意義と目標 大学で講義を受けるために必要な基礎的な日本語の文法力を習得し、その定着を語り、さらに運用できるようにする</p>	
評価方法	
<p>中間・期末テスト（60%）、小テストおよび宿題（20%）、授業への参加度（10%）、出席率（10%）の総合評価による。 ※欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。</p>	
教科書	
プリントを配布する	

日本語1(基礎文法) B	秋 週1回 1単位
担当者：大越 貴子/川口 さち子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 基礎的な日本語文法を復習し、より上級の文脈において運用できるようにする。 (1) 文法の用法を理解し、用法練習をする。 (2) 学んだ文法を使用した表現の練習をする。 (3) 各課ごとに文法の確認の小テストを行う。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ 日本語を母語としない外国人留学生のための授業。大学の講義を受ける上で不可欠な四技能の基礎となる文法能力の養成を目的とする。 3. 学びの意義と目標 大学で講義を受けるために必要な基礎的な日本語の文法力を習得し、その定着を語り、さらに運用できるようにする。</p>	
評価方法	
<p>中間・期末テスト（60%）、小テストおよび宿題（20%）、授業への参加度（10%）、出席率（10%）の総合評価による。 ※欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。</p>	
教科書	
プリントを配布する	

日本語1(総合) A	春 週2回 2単位
担当者：内藤 みち	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 大学での学習において必要な基礎的語彙を身につけ、日本語力の向上をはかる。主に読解教材を使用するが、視聴覚教材を2~3使用する。必要に応じて、教科書の内容に関連した短い読み物などを使用する予定である。しっかりと日本語力を身につけていくために、授業外での使用教材内容に沿った予習復習課題が課せられる。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 大学で学ぶために必要な日本語学習の前段階としての日本語科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 基礎的日本語能力の習得と定着を学習目標とする。</p>	
評価方法	
<p>試験60%、クイズ10%、宿題等の提出等を含む平常点15%、出席点15%。 ※ 欠席が全授業数の3分の1を超える場合は評価対象とならない。</p>	
教科書	
プリントを配布する	

日本語1(総合) B	秋	週2回	2単位
担当者：内藤 みち			
講義の目標及び概要			
1. 内容 大学での学習において必要な基礎的語彙を身につけ、日本語力の向上をはかる。主に読解教材を使用するが、視聴覚教材を2~3使用する。必要に応じて、教科書の内容に関連した短い読み物などを使用する予定である。しっかりと日本語力を身につけていくために、授業外での使用教材内容に沿った予習復習課題が課せられる。			
2. カリキュラム上の位置づけ 大学で学ぶために必要な日本語学習の前段階としての日本語科目である。			
3. 学びの意義と目標 基礎的日本語能力の習得と定着を学習目標とする。			
評価方法			
試験60%、クイズ10%、宿題等の提出等を含む平常点15%、出席点15%。 ※ 欠席が全授業数の3分の1を超える場合は評価対象とならない。			
教科書			
プリントを配布する			

日本語1(調査・発表) A	春	週1回	1単位
担当者：太田 ミユキ/木原 郁子/棚橋 明美			
講義の目標及び概要			
1. 内容 大学の授業中で必要な口頭発表の表現や、具体的に調査や発表をする方法について学ぶ。発音練習を行うとともに、日本語での発表に慣れるため、学期中に複数回口頭発表を行う。この授業では、自分の意見や考えをまとめて発表するだけでなく、他の学生の発表を聞いて、質問したり意見を述べたりすることも併せて学習する。発表の際の原稿を書くこと、レジュメを書くことも学習する。			
2. カリキュラムの位置づけ 外国人留学生のための授業。大学の授業で必要とされる口頭発表の基礎力養成のための授業である。			
3. 学びの意義と目標 日本語での口頭コミュニケーションの障害を取り除き、発表の際の口頭表現能力の向上を目指す。			
評価方法			
発表:60%、提出物(レジュメ・引用記事・発表原稿など):30%、出席:10%の総合評価による。欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。			
教科書			
プリントを配布する			

日本語1(調査・発表) B	秋	週1回	1単位
担当者：太田 ミユキ/木原 郁子/大越 貴子			
講義の目標及び概要			
1. 内容 大学の授業で必要とされる情報収集及び、口頭発表の基礎を学ぶ。日本語での発表に慣れるため、発音練習を行うとともに、学期中に複数回スピーチや発表を行う。あるテーマについて各自調べた内容をまとめて発表したり、そこから自分で考えたことについて発表したりする。また、他の学生の発表を聞いて、質問したり意見を述べたりすることもを行い、発表用レジュメの書き方も併せて学ぶ。			
2. カリキュラムの位置づけ 外国人留学生のための授業。大学の授業で必要とされる情報収集及び、口頭発表の基礎力養成のための授業である。			
3. 学びの意義と目標 日本語での口頭コミュニケーションの障害を取り除き、発表の際の口頭表現能力の向上を目指す。また、口頭発表の準備や具体的な方法を学ぶことも目標とする。			
評価方法			
発表:60%、提出物(レジュメ・発表原稿など):30%、出席:10%の総合評価による。欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。			
教科書			
プリントを配布する			

日本語1(表現文型) A	春	週1回	1単位
担当者：太田 ミユキ/木原 郁子			
講義の目標及び概要			
1. 内容 日本語能力の文法事項に焦点を絞り、その意味用法を学び応用できるようにする。日本語能力試験N3レベルの日本語文法を復習し、日本語能力試験N2レベルの文法項目を学習する。短い読み物や会話表現などを用いることによって、どのように使われるのかを理解し日本語の文法能力の向上をはかる。 (1) 文法の用法を理解し練習した後、さらに実際に例文を作成し、理解を深める。 (2) 課ごとに文法の確認の小テストを行う。			
2. カリキュラムの位置づけ 外国人留学生のための授業。大学の講義を受ける上での不可欠な、四技能の基礎である文法能力の養成のためのもの。			
3. 学びの目標 大学で講義を受けレポートを書くために必要な基礎的な日本語の文法力の習得とその定着を目指す。			
評価方法			
中間・期末テスト(60%)、小テスト・宿題(20%)、授業への参加度(10%)、出席率(10%)の総合評価による。欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。			
教科書			
渡邊亜子・白石知代『N2文法スピードマスター』Jリサーチ出版			

日本語1(表現文型) B	秋 週1回 1単位
担当者: 太田 ミユキ/作田 奈苗	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 日本語能力の文法事項に焦点を絞り、その意味用法を学び応用できるようにする。日本語能力試験N2レベルの文法項目を学習し、短い読み物や会話表現などを用いることによって、どのように使われるのかを理解し、日本語の文法能力の向上をはかる。 (1) 文法の用法を理解し練習した後、さらに実際に例文を作成し、理解を深める。 (2) 課ごとに文法の確認の小テストを行う。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ 外国人留学生のための授業。大学の講義を受ける上での不可欠な、四技能の基礎である文法能力の養成のためのもの。</p> <p>3. 学びの目標 大学で講義を受けレポートを書くために必要な基礎的な日本語の文法力の習得とその定着を目指す。</p>	
評価方法	
<p>中間・期末テスト (60%)、小テスト・宿題 (20%)、授業への参加度 (10%)、出席率 (10%)、の総合評価による。 ※欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。</p>	
教科書	
渡邊亜子・白石知代『N2文法スピードマスター』Jリサーチ出版	

日本語1(文章表現) A	春 週1回 1単位
担当者: 遠藤 直子/黒崎 佐仁子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 本講義は、日本語を母語としない外国人留学生が講義レポートを日本語で書けるようになるための基礎力を養成するものである。一文からはじめ、最終的には600~800字の文章を作成する。学生自身の文章作成とともに、日本語の文章の特徴を学習し、日本語における論理的な文章とは何かを学んでいく。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ 留学生の語学科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 大学での講義レポートや卒業論文に自信を持って臨めるような日本語の文章力を身につけることを学びの目標とする。</p>	
評価方法	
<p>中間・期末テスト (40%)、課題提出 (40%)、出席 (15%)、授業貢献度・態度 (5%) の総合評価による。また、欠席3回を超える者は、例え総得点がトップであっても評価Sは与えられない。</p>	
教科書	
授業の中で指示する	

日本語1(文章表現) B	秋 週1回 1単位
担当者: 遠藤 直子/黒崎 佐仁子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 本講義は、日本語を母語としない外国人留学生が講義レポートを日本語で書けるようになるための基礎力を養成するものである。学生自身の文章作成とともに、日本語の文章の特徴を学習し、日本語における論理的な文章とは何かを学んでいく。また、レポート等の文章のほか、待遇表現を意識した手紙やE-mailの書き方についても学習する。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ 留学生の語学科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 大学での講義レポートや卒業論文に自信を持って臨めるような日本語の文章力を身につけることを学びの目標とする。</p>	
評価方法	
<p>中間・期末テスト (40%)、課題提出 (40%)、出席 (15%)、授業貢献度・態度 (5%) の総合評価による。また、欠席3回を超える者は、例え総得点がトップであっても評価Sは与えられない。</p>	
教科書	
授業の中で指示する	

日本語2(音声表現理解) A	春 週1回 1単位
担当者: 船山 久美	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 大学の講義、テレビやインターネットの動画などを聞き、得た音声などの情報から、意味を再構築し、理解した内容をノートにまとめたり、それについて自分の考えを発信できるような日本語のコミュニケーション能力を養成することを目標とする。具体的には(1)音声などの情報から意味を再構築するために、聴解のストラテジーを学ぶ。(2)内容の大意をわかりやすく文章にまとめる練習を行う。(3)語彙を拡大し、文型を定着させるために聞き取りクイズを行う。(4)理解した情報をもとに自分の考えを発表して話し合う。(5)日本語能力試験1級の聴解・聴読解を意識した練習をする。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 外国人留学生に必要とされる聴解能力を中心とした日本語の運用力を養成するための授業である。(音声表現理解) Aでは聴解ストラテジーの習得に重点を置く。</p> <p>3. 学びの意義と目標 留学生が大学での研究・学習生活に支障のない日本語の聴解能力を身につけ、コミュニケーションを通じて日本社会に参加できるようになることがこの授業の目的である。</p>	
評価方法	
<p>出席 (30%)、授業内タスクと宿題 (30%)、試験 (30%)、授業への参加度 (10%) の総合評価による。※欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。出席が3分の2以上であっても成績不良により不合格になる場合もある。</p>	
教科書	
プリントを配布する	

日本語2 (音声表現理解) B	秋 週1回 1単位
担当者：船山 久美	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>日本語のニュース、ドキュメンタリー、ドラマ、バラエティーなどの幅広いジャンルの番組を視聴し、正確に理解すると同時に、大意をまとめられるようになることを目指す。また、理解のために背景知識となる最新の日本社会の情報や現代日本の若者の考え方について学んだり、読み解くための能力を養い、見たものに対して自分の考えを発信できるようになることを目指す。また、日本語能力試験1級の聴解・聴読解を意識した練習をする。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>外国人留学生に必要とされる聴解能力を中心とした日本語の運用力を養成するための授業である。(音声表現理解) Bでは内容理解を中心に行う。</p> <p>3. 学びの目標</p> <p>留学生が大学での研究・学習生活に支障のない日本語の聴解能力を身につけ、コミュニケーションを通じて日本社会に参加できるようになることがこの授業の目的である。</p>	
評価方法	
出席 (30%)、授業内タスクと宿題 (30%)、試験 (30%)、授業への参加度 (10%) の総合評価による。※欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。出席が3分の2以上あっても成績不良により不合格になる場合もある。	
教科書	
プリントを配布する	

日本語2 (総合) A	春 週2回 2単位
担当者：太田 ミユキ/黒崎 佐仁子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>本講義は、日本語を母語としない外国人留学生の日本語四技能(読む・書く・聴く・話す)の総合的な伸長を目的とする。</p> <p>四技能の総合トレーニングとしては、新聞記事等の読解とディスカッション、学生自身による新聞記事の収集と発表、文化および社会的背景を持った語彙の予習とそれを利用した視聴覚教材による聴解練習などを行う。</p> <p>なお、語彙力の強化のため、毎回カタカナのディクテーションまたは漢字の小テストを行う。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>留学生の語学科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>大学生活を送る上で必要となる日本語能力の伸長とともに、ことばで自分の意見を表現すること及び発表する事柄を自分で探す習慣を付けることを学びの目標とする。</p>	
評価方法	
中間・期末テスト(40%)、課題発表と授業貢献度(15%)スピーチ発表(15%)出席(20%)小テスト(10%)の総合評価による。欠席3回を超える者は、例え総得点がトップであっても評価Sは与えられない。	
教科書	
授業の中で指示する	

日本語2 (総合) B	秋 週2回 2単位
担当者：太田 ミユキ/黒崎 佐仁子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>本講義は、日本語を母語としない外国人留学生の日本語四技能(読む・書く・聴く・話す)の総合的な伸長を目的とする。</p> <p>四技能の総合トレーニングとしては、読解とディスカッション、長文読解とその聴解、視聴覚教材による日本語のリエーションの理解などを行う。</p> <p>なお、語彙力の強化のため、毎回カタカナのディクテーションまたは漢字の小テストを行う。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>留学生の語学科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>大学生活を送る上で必要となる日本語能力の伸長とともに、ことばで自分の意見を表現すること及び実際に用いられている日本語の多様性を観察することを学びの目標とする。</p>	
評価方法	
中間・期末テスト(50%)、課題および宿題の提出(20%)、出席・授業貢献度(20%)、小テスト(10%)の総合評価による。欠席3回を超える者は、例え総得点がトップであっても評価Sは与えられない。	
教科書	
授業の中で指示する	

日本語2 (調査・発表) A	春 週1回 1単位
担当者：木原 郁子/富田 美知子	
講義の目標及び概要	
<p>(内容)</p> <p>留学生が大学の授業内で、口頭発表・討論を行う力を養成する。</p> <p>内容としては、資料の集め方、アンケートなどの調査の仕方、データ分析とそのまとめ方、レジュメの作り方、発表や討論の仕方などを学びながら、最終的に自分の関心のあるテーマについての調査結果を発表し、それをレポートにまとめて提出する。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>留学生が調査・発表に関する基本的表現と技能を身につけ、口頭表現力を高めるための授業である。自分の専門のゼミや将来の仕事などでも応用できるようにする。</p> <p>(学びの意義と目標)</p> <p>自分でテーマを探し、適切な調査が行える。調査したことを取捨選択して、レジュメにまとめられる。聞き手に理解してもらえ発表にする。討論に参加できる。発表における聞き手の重要性を知り役割を果たす。</p>	
評価方法	
口頭発表40%、平常点(クラス活動への参加度、課題提出)20%、出席点20%、最終レポート20%を総合して評価する。欠席が3分の1を超える場合は評価しない。	
教科書	
プリントを配布する	

日本語2(調査・発表) B	秋 週1回 1単位
担当者：太田 ミユキ/富田 美知子	
講義の目標及び概要	
<p>(内容)</p> <p>留学生が大学の授業において口頭発表・討論を行う力を養成する。内容としては、資料の集め方、アンケートなどの調査の仕方、データ分析とまとめ方、レジュメの作り方、発表や討論の仕方などを学びながら、最終的には、自分の関心のあるテーマについての調査結果を発表し、それをレポートにまとめて提出する。</p> <p>(2) カリキュラム上の位置づけ</p> <p>留学生が調査・発表に関する基本的表現と技能を身につけ、口頭表現力を高めるための授業である。自分の専門のゼミや将来の仕事などでも応用できるようにする。</p> <p>(3) 学びの意義と目標</p> <p>自分でテーマを探し、適切な調査が行える。調べたことを取捨選択して、レジュメにまとめられる。聞き手に理解してもらえる発表が工夫できる。討論に参加できる。発表における聞き手の重要性を知り役割を果たす。</p>	
評価方法	
口頭発表40%、平常点(クラス活動への参加度、課題提出) 20%、出席点20%、最終レポート20%を総合して評価する。 欠席が3分の1を超える場合は評価しない。	
教科書	
プリントを配布する	

日本語2(文章表現) B	秋 週1回 1単位
担当者：木原 郁子/作田 奈苗	
講義の目標及び概要	
<p>(1) 内容</p> <p>大学の授業で必要とされる文章表現を学ぶとともに、レポートの書き方を学び、自分でレポートを作成する。日本語2(文章表現) Aに引き続き、読解と文型の短文作成練習を通して書き言葉の構造と運用を身につけ、さらにテーマに即した作文練習をすることで、自分の考えを的確に述べるができるように学習していく。さらにこの授業では、レポートの書き方を学び、自分の調べたことや考えをレポートの形にまとめる練習を行う。</p> <p>(2) カリキュラム上の位置づけ</p> <p>留学生を対象とした日本語の授業である。</p> <p>(3) 学びの目標</p> <p>大学の授業で提出する文章やレポートが、正しい日本語と大学生の文章として適切な表現でできるようになることを目標にする。</p>	
評価方法	
期末試験・レポート(60%)、提出物(クラス内・宿題)(30%)、授業への参加度(10%)、出席率(10%)、の総合評価による。 ※欠席が全授業数の3分の1以上の者の単位は認められない。	
教科書	
プリントを配布する	

日本語2(文章表現) A	春 週1回 1単位
担当者：大越 貴子/木原 郁子	
講義の目標及び概要	
<p>(1) 内容</p> <p>大学の授業で必要とされる基本的な文章表現を学ぶ。読解と文型の短文作成練習によって、書き言葉の構造と運用を身につけ、さらにテーマに即した作文練習をすることで、自分の考えを的確に述べるができるように学習していく。</p> <p>(2) カリキュラム上の位置づけ</p> <p>留学生を対象とした日本語の授業である。</p> <p>(3) 学びの目標</p> <p>大学の授業で提出する文章やレポートが、正しい日本語と大学生の文章として適切な表現でできるようになることを目標にする。</p>	
評価方法	
期末テスト(50%)、提出物(クラス内・宿題)(30%)、授業への参加度(10%)、出席率(10%)、の総合評価による。 ※欠席が全授業数の3分の1以上の者の単位は認められない。	
教科書	
プリントを配布する	

日本語2(文法) A	春 週1回 1単位
担当者：遠藤 直子/大越 貴子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>日本語能力試験N1レベルの文法を学ぶ。N1の機能語の使用場面や機能語とともに使われることが多い語彙も学習する。機能語の意味が理解できるようになるために練習問題とともに実際の使用の観察を行う。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ</p> <p>留学生の語学科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>日本語を母語としない外国人留学生が日本人とともに大学の授業を受けるために必要となる文法力を身に付けることを学習目標とする。</p> <p>日本語2(文法) A・Bを受講後、自信を持って日本語能力試験N1を受験できるようになってもらいたい。</p>	
評価方法	
中間・期末テスト(60%)、小テストと授業貢献度(20%)、出席(20%)の総合評価による。また、欠席3回を超えるものは、たとえ総得点がトップであっても評価Sは与えられない。	
教科書	
安藤榮里子・今川和『耳から覚える日本語能力試験 文法トレーニングN1』アルク	

日本語2(文法) B	秋 週1回 1単位
担当者：遠藤 直子/大越 貴子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 日本語能力試験N1レベルの文法を学ぶ。N1の機能語の使用場面や機能語とともに使われることが多い語彙も学習する。機能語の意味が理解できるようになるために練習問題とともに実際の使用の観察を行う。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ 留学生の語学科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 日本語を母語としない外国人留学生在が日本人とともに大学の授業を受けるために必要となる文法力を身に付けることを学習目標とする。 日本語2(文法) A・Bを受講後、自信を持って日本語能力試験N1を受験できるようになってもらいたい。</p>	
評価方法	
中間・期末テスト(60%)、小テストと授業貢献度(20%)、出席(20%)の総合評価による。また、欠席3回を超える者は、たとえ総得点がトップであっても評価Sにはならない。	
教科書	
安藤栄里子・今川和『耳から覚える日本語能力試験 文法 トレーニングN1』アルク	

日本語3(小説で学ぶ) A	春 週1回 1単位
担当者：富田 美知子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 いろいろな短編小説を通して、日本語の語彙力を高めるとともに文法の多様性を学ぶ。 さらに自律学習に向けてのストラテジーの育成を図る。 またこの授業では、視聴覚教材を通して作品の時代背景や作者の素顔なども学習していく。授業内容は、学生の日本語レベルに応じて変更することがある。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 外国人留學生のための日本語授業である。授業内容は、専門的ではなく基本的な内容を扱う。しかし日本語2レベル履修後でない受講が難しい。</p> <p>3. 学びの意義と目標 留學生が日本人と共に学ぶために必要な日本語力の向上を学習目標とする。 この授業では、小説を読むことを通して、日本語の語彙力を培うとともに、日本語文法の多様性をも理解できるようになることがこの授業の目標である。</p>	
評価方法	
試験30%、最終課題(レポートなど)30%、平常点(授業参加度など)20%、出席点20%で評価する。 *ただし欠席が全授業回数の3分の1以上の場合は評価対象とならない。	
教科書	
プリントを配布する	

日本語3(小説で学ぶ) B	秋 週1回 1単位
担当者：富田 美知子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 いろいろな短編小説を通して、日本語の語彙力を高めるとともに、文法の多様性を学んでいく。さらに自律学習に向けてのストラテジーの育成を図る。 またこの授業では、視聴覚教材を通して、作品の時代背景や作者の素顔なども学んでいく。授業内容は、学生の日本語レベルに応じて変更することがある。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 外国人留學生のための日本語授業である。授業内容は、専門的ではなく基本的な内容を扱う。しかし日本語2レベル履修後でない受講が難しい。</p> <p>3. 学びの意義と目標 留學生が、日本人と共に学ぶために必要な日本語力の向上を学習目標とする。 この授業では、小説を読むことを通して、日本語の語彙力を培うとともに、日本語文法の多様性をも理解できるようになることが、この授業の目標である。</p>	
評価方法	
試験30%、最終課題(レポートなど)30%、平常点(授業参加度など)20%、出席点20%で評価する。 *ただし欠席が全授業回数の3分の1以上の場合は評価対象とならない。	
教科書	
プリントを配布する	

日本語3(創作で学ぶ) A	春 週1回 1単位
担当者：大越 貴子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 本講義は、日本語による創作活動を通し、留學生の自己表現力の育成を支援するものである。新聞への投稿、日本の古典(短歌・俳句・川柳)、エッセイ、小論文など多様な創作形態を学び、可能な限り外部への投稿を目指す。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ 留學生対象の語学科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 本学における留學生対象科目では、日本語能力の最も高いレベルであるため、日本文化および日本語の表現形式を学びながら、日本語で積極的に自分の考えを表現することを楽しめるようになることを目標とする。</p>	
評価方法	
出席20%、課題提出40%、発表20%、授業貢献度20%の総合評価で行う。(学期中に告知して変更する場合もある。) 欠席が3分の1を超える場合、評価対象外とするので注意すること。	
教科書	
プリントを配布する	

<p>日本語3(創作で学ぶ) B 秋 週1回 1単位</p>
<p>担当者：棚橋 明美</p>
<p>講義の目標及び概要</p> <p>1. 内容 日本語を母語としない外国人留学生の日本語による自己表現実践のためのクラス。現代の俳句、川柳、短歌、エッセイ、ショートショート（掌編小説）などの文学的素材を鑑賞し、創作を試みる。創作作品は、たとえ稚拙であっても、本人のオリジナリティーが感じられるものであれば、高く評価される。可能な限り外部への投稿も行う。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 留学生の語学科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 本校における日本語能力の最上位クラスであるので、教師と学生が共に言葉の面白さを感じ、文学を味わい、また自己表現する喜びを分かち合うクラスにしたい。学生からの希望作品があれば、できるだけ取り入れるようにしたい。</p>
<p>評価方法</p> <p>出席(25%) 課題提出(40%) 発表(20%) 授業貢献度(15%)の総合評価。欠席3回以上の者は総得点がトップであってもSは与えられない。提出作品が盗作だと発覚した場合は、カンニングとみなされ、校則に従った処分が課されるので注意すること。</p>
<p>教科書</p> <p>プリントを配布する</p>

<p>日本語3(調査・発表) A 春 週1回 1単位</p>
<p>担当者：黒崎 佐仁子</p>
<p>講義の目標及び概要</p> <p>1. 内容 この授業では、「多文化とは何か」「多文化共生とは何か」を留学生だけでなく、日本人学生もを交えたグループで互いに意見を交換し合いながら、思考したものを口頭で表現する能力を育成する。授業はディスカッションや発表を中心に進めるため、黙って座っているのではなく、積極的に意見を口にしてもらいたい。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 留学生の語学科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 相互理解を進めるためのコミュニケーションとは何かを体験から学ぶことを目標とする。</p>
<p>評価方法</p> <p>出席20%、ディスカッション貢献度20%、クラスレポート20%、発表20%、レポート20%。</p>
<p>教科書</p> <p>授業の中で指示する</p>

<p>日本語3(調査・発表) B 秋 週1回 1単位</p>
<p>担当者：大越 貴子</p>
<p>講義の目標及び概要</p> <p>1. 内容 本講義ではテーマについて、参考文献を読み、インタビューまたはアンケートなどの調査を行って、その結果を分析し、考察した結果を発表する方法を学ぶ。テーマ決定を始め、調査方法の選択や発表資料の作成など、学期中クラス内で常に討議し、クラスメートや教師の助言を受け、経過発表を繰り返しながら進める。さらに最終発表した内容をレポートにまとめるところまで指導する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 留学生対象とし、大学の授業やゼミで必要とされるアカデミックな総合日本語力を養う。</p> <p>3. 学びの意義と目標 学期中、教師やクラスメートの助言や支援を受けながら、テーマについて深く考え、一連の活動を経験することで、各自の日本語運用力をブラッシュアップし、専門課程の授業に積極的に参加できる上級日本語力を習得することを目標とする。</p>
<p>評価方法</p> <p>口頭発表40%、平常点(授業貢献度・課題提出度)40%、最終レポート20%の総合評価で行う。 欠席が3分の1を超えた場合は評価対象外とするので注意すること。</p>
<p>教科書</p> <p>プリントを配布する</p>

<p>日本語3(ドラマで学ぶ) A 春 週1回 1単位</p>
<p>担当者：遠藤 直子</p>
<p>講義の目標及び概要</p> <p>1. 内容 ・ドラマ視聴を通して、話し言葉に特有な表現を聞き取れるようにする。 ・文脈に即した表現を理解し、使えるようにする ・中間テストおよび期末テストを行い、ドラマの内容が把握できているか、学習した表現が理解できているかなどを確認する。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ ・留学生のための日本語授業 ・大学の講義を聴く力をつけつつ、日本人とスムーズなコミュニケーションを行うために 必要な表現を学び、使えるようにする。 目上の人への敬語から親しい友人とのおしゃべりまで幅広く扱う。</p> <p>3. 学びの意義と目標 日本で生活するうえで必要なコミュニケーション能力をドラマ視聴を通して身につけることを目標とする。</p>
<p>評価方法</p> <p>出席が3分の2に満たない場合は評価対象とならない。 自分の考えなどを積極的に発言すること。授業参加度として評価の対象となる。出席(20%)、授業参加度(30%)、中間テスト・期末テスト(50%)</p>
<p>教科書</p> <p>プリントを配布する</p>

日本語3(ドラマで学ぶ) B		秋	週1回	1単位
担当者：遠藤 直子				
講義の目標及び概要				
1. 内容 ・ドラマ視聴を通して、話し言葉に特有な表現を聞き取れるようにする。 ・文脈に即した表現を理解し、使えるようにする ・中間テストおよび期末テストを行い、ドラマの内容が把握できているか、学習した表現が理解できているかなどを確認する。 2. カリキュラムの位置づけ ・留学生のための日本語授業 ・大学の講義を聴く力をつけつつ、日本人とスムーズなコミュニケーションを行うために必要な表現を学び、使えるようにする。 目上の人への敬語から親しい友人とおしゃべりまで幅広く扱う。 3. 学びの意義と目標 日本で生活するうえで必要なコミュニケーション能力をドラマ視聴を通して身につけることを目標とする。				
評価方法				
出席が3分の2に満たない場合は評価対象とならない。 自分の意見など積極的に発言すること。授業参加度として評価の対象となる。出席 (20%)、授業参加度 (30%)、中間テスト・期末テスト (50%)				
教科書				
プリントを配布する				

日本語3(ニュースで学ぶ) A		春	週1回	1単位
担当者：船山 久美				
講義の目標及び概要				
1. 内容 日本語のテレビや動画のニュースや新聞記事などを通して時事問題を理解し、上級の語彙は表現を習得し、メディアの解読ができるようになることを目指す。授業では(1)新聞記事の解読と話し合い、(2)ニュースの解読と話し合いを行う。(ニュースで学ぶ) Aでは教師が選んだ新聞やニュースを解読し、語彙や表現の理解と習得に重点を置く。 2. カリキュラム上の位置づけ 外国人留学生に必要とされるメディアの読解と聴解能力を中心とした日本語のコミュニケーション能力を養成するための授業である。 3. 学びの目標 留学生在が大学での研究・学習生活に支障のない日本語のメディア解読能力を身につけ、日本社会に参加できるようになることがこの授業の目的である。				
評価方法				
出席 (30%)、語彙テスト (30%)、試験 (30%)、授業への参加度 (10%) の総合評価による。※欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。出席が3分の2以上あっても成績不良により不合格になる場合もある。				
教科書				
プリントを配布する				

日本語3(ニュースで学ぶ) B		秋	週1回	1単位
担当者：船山 久美				
講義の目標及び概要				
1. 内容 日本語のテレビや動画のニュースや新聞記事などを通して時事問題を理解し、上級の語彙の習得し、メディアの解読ができるようになることを目指す。授業では(1)新聞記事の解読と話し合い、(2)ニュースの解読と話し合いを行う。(ニュースで学ぶ) Bでは学生自らニュースを選んで分析し、発信する能力の養成に重点を置く。具体的には課題1として学生各人が関心を持つ新聞記事を選び、選択理由・内容・意見を書いて提出する。課題2として動画ニュースを選び、選択理由と内容及びニュースに対する意見の発表を行う。 2. カリキュラム上の位置づけ 外国人留学生に必要とされるメディアの読解と聴解能力を中心とした日本語のコミュニケーション能力を養成するための授業である。 3. 学びの目標 留学生在が大学での研究・学習生活に支障のない日本語のメディア解読能力を身につけ、日本社会に参加できるようになることがこの授業の目的である。				
評価方法				
出席 (30%)、課題1 (30%)、課題2 (30%) 授業への参加度 (10%) の総合評価による。※欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。出席が3分の2以上あっても成績不良により不合格になる場合もある。				
教科書				
プリントを配布する				

日本語3(ビジネス日本語) A		春	週1回	1単位
担当者：木原 郁子				
講義の目標及び概要				
1. 内容 基本的な敬語を復習し、相手との関係 (上下・親疎) やいろいろな場面において適切な待遇表現が選択できるように応用練習をする。具体的には、問い合わせや依頼などについて、口頭でのやりとりとメールの書き方を学ぶ。また、仕事や進学の面接場面での対応や、自己アピールの表現についても学習する。また、仕事のための日本語でのコミュニケーションも学ぶ。 2. カリキュラム上の位置づけ 大学における日本語力を身につけた留学生のための講義で、卒業後社会に出てからの日本語の使用に対応するもの。 3. 学びの目標 日本語での会話をスムーズに運ぶためには、人間関係や場面を考慮して表現を選ばなければならない。本講義では、そのような日本語での潤滑なコミュニケーションのための表現を学び、様々な場面において実際に応用できるようになることを目標とする。				
評価方法				
テスト 50% 授業中の発表と課題の提出 30% 平常点 (出席率、授業への参加度) 20% *欠席が3分の1以上となる場合単位は与えられない。				
教科書				
プリントを配布する				

日本語3(ビジネス日本語) B	秋 週1回 1単位
担当者：木原 郁子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>基本的な敬語を復習し、適切な待遇表現ができるように応用練習をする。電話会話や日本語メールの書き方、進学や会社面接での対応や、自己アピールの表現についても学習する。また、社会に出て仕事をするための日本語でのコミュニケーションを学ぶ。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ</p> <p>大学における日本語力を身につけた留学生のための講義で、卒業後社会に出てからの日本語の使用に対応するもの。</p> <p>3. 学びの目標</p> <p>本講義では、日本語での潤滑なコミュニケーションのための表現を学び、大学卒業後社会での様々な場面において、日本語を実際に応用できるようになることを目標とする。</p>	
評価方法	
<p>テスト 50%</p> <p>授業中の発表と課題の提出 30%</p> <p>平常点(出席率、授業への参加度) 20%</p> <p>*欠席が3分の1以上となる場合単位は与えられない。</p>	
教科書	
プリントを配布する	

日本語学(音声・音韻) A	春 週1回 2単位
担当者：中川 千恵子	
講義の目標及び概要	
<p>(1) 内容</p> <p>日本語教育の観点から、日本語音声学・音韻論の基礎を学ぶ。「あいえお」など単音の発音について、規範的な発音法を学び、自分自身の発音との差異を考える。そのために、実際に発音したり音声を開いたりして、積極的に音声の微妙な違いや自分の調音部位の状態を発見するような活動を行う。また、日本語の発音記号の書き方を身につける。</p> <p>試験は、日本語教育能力検定試験の出題内容も視野に入れ、筆記と聴解の両方を課す。</p> <p>(2) (カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>日本語教育の観点から、日本語音声学・音韻論の中の単音(分節音)についての知識と応用を学ぶ。後期に「日本語学(音声・音韻)B」を受講がのぞましい。</p> <p>(3) (学びの目標)</p> <p>日本人にとっては、自分の発音を客観的かつ論理的に考えること、外国人にとっては、日本語の発音を論理的に知ることが目標である。</p>	
評価方法	
<p>期末テスト(60%)、出席率(30%)、授業態度・貢献度(10%)の総合評価による。出席率70%を割った者は、期末テストを受けられない。</p> <p>出席率100%をめざしてほしい(休むと分からなくなり、興味を失うことになるので注意)。</p>	
教科書	
国際交流基金『音声を教える』ひつじ書房	

日本語学(音声・音韻) B	秋 週1回 2単位
担当者：中川 千恵子	
講義の目標及び概要	
<p>(1) 内容</p> <p>日本語のアクセント・イントネーション・リズムなどの韻律(プロソディー)について学習する。実際の音声を開いたり発音してみたりすることで、アクセントやイントネーションなどの韻律特徴をとらえ、体系化して考えることを学ぶ。規範とされる韻律体系と自分の発音や他の人の発音との差異について、実際に発音してみても確かめる。日本語教育能力検定試験の出題内容も視野に入れ、試験問題なども扱う。</p> <p>(2) (カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>日本語教育の観点から、日本語音声学・音韻論の中の韻律(プロソディー)についての知識と応用を学ぶ。前期の「日本語学(音声・音韻)A」の受講がのぞましい。</p> <p>(3) (学びの目標)</p> <p>日本人にとっては、自分の発音を客観的かつ論理的に考えること、外国人にとっては、日本語の発音を論理的に知ることが目標である。</p>	
評価方法	
<p>期末テスト(60%)、出席率(30%)、授業態度・貢献度(10%)の総合評価による。出席率70%を割った者は、期末テストを受けられない。</p> <p>出席率100%をめざしてほしい(休むと分からなくなり、興味を失うことになるので注意)。</p>	
教科書	
<p>授業の中で指示する</p> <p>中川千恵子 他『さらに進んだスピーチ・プレゼンのための発音練習帳』ひつじ書房</p>	

日本語学(文法) A	春 週1回 2単位
担当者：黒崎 佐仁子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>この授業では、普段意識せずに使用している日本語を見直し、日本語がどのような文法から成り立っているのかを学んでいく。日本語の文法は「命題」と「モダリティ」から成ると言われているが、「文法A」では特に「命題」に重きを置く。また、「文法A」では主に単文を扱う。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>この授業は人文学部日本文化学科の専門科目群文学・語学系統科目の一つであり、日本語教員養成課程日本語学関係分野の科目の一つでもある。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>日本語を客観的に観察し、分析し、説明する力をつけることを目標とする。</p>	
評価方法	
<p>出席25%、宿題・課題の提出20%、中間レポート20%、期末テスト30%、授業参加度(発表などの授業内活動) 5%</p>	
教科書	
<p>プリントを配布する</p> <p>森山 卓郎『ここからはじまる日本語文法』ひつじ書房</p>	

日本語学(文法) B	秋 週1回 2単位
担当者：黒崎 佐仁子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 この授業では、普段意識せずに使用している日本語を見直し、日本語がどのような文法から成り立っているのかを学んでいく。日本語の文法は「命題」と「モダリティ」から成ると言われているが、「文法B」では特に「モダリティ」に重きを置く。また、「文法A」では主に単文を扱ったが、「文法B」では複文についても考察していく。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ この授業は人文学部日本文化学科の専門科目群文学・語学系統科目の一つであり、日本語教員養成課程日本語学関係分野の科目の一つでもある。</p> <p>3. 学びの意義と目標 日本語を客観的に観察し、分析し、説明する力をつけることを目標とする。</p>	
評価方法	
出席25%、宿題・課題の提出20%、中間レポート15%、レポート35%、授業参加度（発表などの授業内活動）5%。	
教科書	
森山 卓郎『ここからはじまる日本語文法』ひつじ書房	

日本語学概説	春 週2回 4単位
担当者：小林 茂之	
講義の目標及び概要	
<p>(内容) 現代言語学は、科学の一分野として認識されるようになった。これは、チョムスキーによる生成文法と呼ばれる言語研究が言語学の主流の一つを占めるようになったためである。本講義では、現在アメリカの代表的知識人の一人であるチョムスキーについて紹介し、彼が確立した生成文法が何を問題とし、解明してきたかを概説する。そして、生成文法が研究対象とする母語話者の言語知識とは何であるかを、受講者のほとんどの母語である日本語と、言語の普遍性の観点から日本人にとってもっとも知られている外国語である英語のデータに基づいて、教科書の構成に従いながら解説し、歴史言語学の導入を補足する。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ) 言語研究の各分野についての入門コース。</p> <p>(学びの意義と目標) 現代知性の代表の一人としてのチョムスキーと現代言語学を具体例を通して理解し、大学生レベルの現代言語学・言語哲学・認知科学に関する人文学的教養を身に付ける。</p>	
評価方法	
出席 (20/100)・平常点(20/100)・期末レポート(60/100)	
教科書	
井上和子・他『生成言語学入門』大修館書店	

日本語学特殊講義	秋 週2回 4単位
担当者：宮城 信	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 この講義は、日本語の形容詞に注目して、意味論・語彙論・形態論の観点から考察を行う。前半は、日本語学における形容詞の位置づけ、歴史的変遷、形容詞の機能などについて概説し全体を像を捉える。後半は、形容詞語彙の広がり、意味的特徴をデータから読み取っていく。また、形容詞の機能の拡張や新しい形容詞の出現などについても言及する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 専門科目の一つである。形容詞の分析を通して、学術的観点、思考法、分析法の基礎を学ぶことになる。</p> <p>3. 学びの意義と目標 歴史的な変化を踏まえて、外国語との比較も行いながら、日本語の形容詞語彙の豊かさ、奥深さを実感し、母語である日本語への視野をさらに広げることがを目標とする。</p>	
評価方法	
学年末試験／レポート60%、授業中に作成する小課題20%、出席状況20%として評価を行う。	
教科書	
プリントを配布する	

日本語教育概論	春 週2回 4単位
担当者：北村 淳子	
講義の目標及び概要	
<p>(1) (内容) 本講義では、日本語教育の現状及び歴史を理解した上で、英語・国語教育との比較における日本語教育の特色、日本語の音声、文法、文字・表記、語彙、日本語教育と関わりのある社会言語学、心理学を概観する。また、教師としての心構えについても考える。</p> <p>いくつかのテーマについては、講師が課題を出し、何人かの学生を指名し、レポートを書かせる。指名された学生の一人は、レポートの内容についてクラスに報告する。</p> <p>(2) (カリキュラム上の位置づけ) 日本語教育関係科目である。教授法講義、教授法演習、教育実習へと進む上で必要となる基礎的な知識を学ぶ。一年次及び二年次の受講が望ましい。日本語教員養成課程修了のための必修科目であるが、教職課程をとる学生にもすすめたい。</p> <p>(3) (学びの意義と目標) 日本語教育に必要な基礎的知識を得ること。</p>	
評価方法	
(1) レポートの内容 (2) 教室内発表の内容 (3) 授業態度をそれぞれ10%、(4) 試験を70%に換算して評価する。出席時間数が全体の3分の2に満たない者は評価しない。	
教科書	
高見澤孟 監修『新・はじめての日本語教育1』アスク	

日本語教育実習	春 週1回 1単位
担当者：川口 さち子	
講義の目標及び概要	
<p>〈内容〉外国人学生に日本語を教えるための実践的な力を養う。</p> <p>1 教室内作業</p> <p>1) 教科書の各課の指導項目を把握・分析し、各項目の導入方法およびドリルや会話等の練習方法を学び、教案が立てられるようにする。</p> <p>2) 指導項目にあった、教材が作成できるようにする。</p> <p>3) 模擬実習を行い、実際の教壇に立てるようにする。</p> <p>2 現場実習…夏休みの2週間を使い、実際に日本語教育機関で見学および教壇実習を行う。見学ノート・教壇実習の教案およびそのレポート・日本語教育機関での実習を終えてのレポートを作成、提出する。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉日本語教授法演習を終了し、いよいよ実践への応用となる段階である。</p> <p>〈学びの目標〉これを履修することにより、現場で実際に教えられる力を身につけてほしい。</p> <p>※このほかに、現場実習へ行く前に自主トレーニングを行ってもらう予定である。</p>	
評価方法	
<p>〈教案〉(20%)、〈教室発表〉(20%)、〈討論への参加度・実習での取り組み〉(10%)、出席状況(10%)〈実習レポート・見学ノートの内容〉(20%)、実習校における担当教師の評価(20%)</p>	
教科書	
スリーエーネットワーク編『みんなの日本語I・II』(スリーエーネットワーク)	

日本語教材・教具論	春 週1回 2単位
担当者：作田 奈苗	
講義の目標及び概要	
<p>1 内容</p> <p>この授業では、日本語を教えるときの効果的な教材の選び方、使い方、及び、作り方について考える。日本語教師として、学習者のレベルや学習目的に合わせた的確な教材を用意できるようになるため、教材選択の留意点を学び、どんなものが教材の素材になり得るかを学ぶ。さらに、その素材をもとに実際の教材を作成し、利用する実践力を身につける。授業では講義だけではなく実際の教材作成に取り組み、それを発表し互いに検討する。</p> <p>2 カリキュラム上の位置づけ</p> <p>日本語教員養成課程関係科目である。日本語教育概論、教授法講義で学んだ知識を生かし、教授法演習、教育実習へと進むための準備を行う。したがって、日本語教育概論及び日本語教授法講義を履修していることが望ましい。</p> <p>3 学びの意義と目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者のレベルや目的に合わせた教材を選んだり作ったりできるようになること。 ・インターネット、テレビ、印刷物等の様々なメディアの中から教材として使える素材を入手し、それを利用した教材を作れるようになること。 	
評価方法	
授業課題:60% 最終課題:20% 出席率:20%	
教科書	
プリントを配布する	

日本語教授法演習	秋 週2回 2単位
担当者：木原 郁子	
講義の目標及び概要	
<p>「外国人に対する日本語」の教え方の基礎を学ぶ。受講資格は、「日本語教授法講義」を履修済みであること。また、この演習の単位を取得しなければ、「日本語教育実習」の履修の資格は得られない。</p> <p>「外国人に対する日本語の教師」になるための心構えをつくり、必要な基礎知識を身につける。また、いろいろな日本語教科書の特徴を調べる。特に、『みんなの日本語』を用い、日本語文法を「文型」という観点から学ぶ。</p> <p>アセンブリーアワーに行われる実習報告会(例年10月または11月に実施)、留学生弁論大会(開催される場合は11月頃)への参加とレポート作成は、この授業の一環として必須事項とするのでスケジュールを空けておくこと。また、入試日などの大学休校日を利用して、日本語学校の授業見学を行う予定である。</p>	
評価方法	
<p>期末試験(60%)、課題と授業への参加度(20%)、出席率(20%)、の総合評価による。期末試験50%以上の得点、出席率70%以上、かつ課題提出率100%を単位取得の条件とする。</p>	
教科書	
『みんなの日本語I』本冊、『みんなの日本語II』本冊』スリーエーネットワーク	

日本語教授法講義	秋 週2回 4単位
担当者：川口 さち子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 【内容】まず、いろいろな外国語教授法を学んだ上で、初級・中上級の指導法、4技能(聞く・話す・読む・書く)の指導法、教材の使い方などを中心に学んでいく。</p> <p>(1)各種教授法を学ぶ際は、ビデオを視聴したり、受講生に模擬学生になってもらい、外国語のモデル授業を行い、それについて討論を行う。また、数名の学生を指名してレポートを書いてもらう。担当者は、授業内で発表し、その後質疑応答を行う。</p> <p>(2)〈期末レポート〉指定したいくつかの課題の中から選び、「期末レポート」を書き、期末最後の講義時間に提出する。</p> <p>2. 【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>日本語教員養成のための科目である。日本語教育概論をとった上で履修すること。この講義で、教授法の全体的なことを学び、日本語教授法演習へと進む。</p> <p>3. 【学びの目標】</p> <p>第2言語としての日本語を外国人に教えるとはどういうことかということを知り、実際の現場で応用できるようにする。</p>	
評価方法	
<p>評価は〈教室発表〉(20%)〈期末レポート〉(50%)、討論への参加度(10%)、出席状況(20%)を総合して判定する。筆記試験は行わない。出席時間数が全体の2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	
教科書	
小林 ミナ『日本語教育能力検定試験に合格するためのよくわかる教授法』(アルク)	

日本国憲法 (木/3)	春 週1回 2単位
担当者：武藤 健一	
講義の目標及び概要 日本国憲法の規定を手がかりにしながら、現代日本社会における人権のあり様を検討していきますが、私の専攻であるジェンダー憲法学から考える日本国憲法論なので、一般的な内容ではなく、学際的に社会学的手法・研究成果も取り上げながら、現実の社会に存在する人権のあり方を探求し、それを理解していくことを目標とする授業となっています。 また、法学専攻でもなく法解釈学の基礎を知らない学生からすれば、一般的な日本国憲法の授業によく見られるような各条文の解釈論を展開していくことは難しいと思われるので、それを中心的に扱うことはありえません。 まずは、人権を論じられるようになるための最低限の基本原則を押さえた上で、ジェンダー憲法学から問題視される中心的な存在である家族単位主義の問題点を理解するという目的の達成のために、法律婚家族のあり方、子どもの人権侵害の象徴的存在である「虐待」(CA)、という2項目にまつわる日本国憲法が関わる人権問題を検討していきます(具体的内容は「授業計画」を参照のこと)、そのことによって、家族(単位主義)と人権という人権論において重要な問題点を理解するという本講義の目的を達成することになります。	
評価方法 出席点・平常点を重視します(ただし、出席しているだけでは評価の対象にまったくなりません)。そこでレスポンス=シート(：授業末レポート・テスト)の評価を出席点・平常点とし、配分は、(出席点+平常点)：学期末試験=67%：33%、とします。	
教科書 プリントを配布する	

日本国憲法 (木/4)	春 週1回 2単位
担当者：武藤 健一	
講義の目標及び概要 日本国憲法の規定を手がかりにしながら、現代日本社会における人権のあり様を検討していきますが、私の専攻であるジェンダー憲法学から考える日本国憲法論なので、一般的な内容ではなく、学際的に社会学的手法・研究成果も取り上げながら、現実の社会に存在する人権のあり方を探求し、それを理解していくことを目標とする授業となっています。 また、法学専攻でもなく法解釈学の基礎を知らない学生からすれば、一般的な日本国憲法の授業によく見られるような各条文の解釈論を展開していくことは難しいと思われるので、それを中心的に扱うことはありえません。 まずは、人権を論じられるようになるための最低限の知識を押さえた上で、ジェンダー憲法学から問題視されるセクシュアリティ(：性のあり方)と人権というポイントを理解するという目的の達成のために、性同一性障害(GID)と人権、性に関わる人権に対する侵害である性被害と人権の関わり、という2項目を検討していきます(具体的内容は「授業計画」を参照のこと)、そのことによって、セクシュアリティと人権という人権論において、いまだにしっかりと解決されていない重要な問題点を理解するという本講義の目的を達成することになります。	
評価方法 出席点・平常点を重視します(ただし、出席しているだけでは評価の対象にまったくなりません)。そこでレスポンス=シート(：授業末レポート・テスト)の評価を出席点・平常点とし、配分は、(出席点+平常点)：学期末試験=67%：33%、とします。	
教科書 プリントを配布する	

日本国憲法	秋 週1回 2単位
担当者：伊藤 泰	
講義の目標及び概要 (内容) 近代および現代憲法の歴史と性格を踏まえた上で、日本国憲法について、判例等参照しながら講義を行う。とくに、憲法の諸原理と人権保障が中心となる予定である。 (カリキュラム上の位置づけ) 民法その他の法学関連の科目を受講しておく、授業の内容がさらに興味深いものとなるだろう。 (学びの意義と目標) 憲法の基本的な構造について学習することが目標である。	
評価方法 筆記試験の成績を基礎としつつ(70%程度)、出席状況や授業中の態度も考慮する。なお補助的な評価手段としてレポートを採用するかについては受講者と話し合って決めたいと思う。	
教科書 芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法第五版』岩波書店	

日本国憲法	秋 週1回 2単位
担当者：安原 陽平	
講義の目標及び概要 【内容】 憲法上保障されている自由・平等、そしてそれらを保障するための統治機構について学習していきます。自由・平等、そして国会・内閣・裁判所といった統治機構に関しての学説や判例を中心に学びます。できるだけ具体的な事例を扱い憲法問題が身近なところにも存在するというを確認していきます。 【カリキュラム上の位置づけ】 全学科の学生にとっての教養科目であると同時に、教職課程における必修科目としての位置づけとなっています。 【学びの意義と目標】 本授業を通して、憲法的な考え方を身につけることを目標とします。 そして、その憲法的な考え方を通して、身近な事例を自分自身で考えられるようになることが最終的な目標です。	
評価方法 出席・平常点 (30%) と試験 (70%) *出席・平常点は、講義ごとにリアクションペーパーで確認します。	
教科書 プリントを配布する	

日本語表現法(ディベート) I	春 週1回 2単位
担当者：瀬能 和彦	
講義の目標及び概要	
<p>【内容と目的】 アカデミック・ディベートは、現代社会の抱える様々な問題を、肯定、否定に分かれて議論することで思考力、議論力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等の向上を図る教育ゲームです。この授業では、そのアカデミック・ディベートを初歩から学んでいきます。アカデミック・ディベートを学ぶことで、読む・聞く・書く・話すという基礎的な日本語の4技能を効果的に伸ばし、様々な問題の解決に必要な論理的・批判的思考力を育成することがこの講座の目的です。授業はディベート及びその理論に関する講義に加え、個人及びグループでの実技・演習（試合等）が中心となりますので、受講生の積極的な参加が求められます。人と積極的に関わることの好きな人向けの授業です。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】 2年生から受講できます。日本語の「文章表現」能力に加えて、口頭でも論理的にやりとりをする能力（プレゼンテーション能力及び傾聴力）を磨くために設けられた講座です。</p>	
評価方法	
授業への参加及び人と積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢を重視します。平常点（課題提出等、約40%）と学期末テスト（約60%）で評価を行う予定です。	
教科書	
プリントを配布する	

日本語表現法(ディベート) II	秋 週1回 2単位
担当者：瀬能 和彦	
講義の目標及び概要	
<p>【内容と目的】 アカデミック・ディベートは、現代社会の抱える様々な問題を、肯定、否定に分かれて議論することで思考力、議論力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等の向上を図る教育ゲームです。この授業では、日本語表現法（ディベート）Iで学習したことを更に深めて学んでいきます。アカデミック・ディベートを学ぶことで、読む・聞く・書く・話すという日本語の4技能と共に様々な問題の解決に必要な論理的・批判的思考力を高度に育成することがこの講座の目的です。授業は個人及びグループでの実技・演習（試合等）が中心となりますので、受講生の積極的な参加が求められます。人と積極的に関わることの好きな人向けの授業です。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】 2年生から受講できます。日本語の「文章表現」能力に加えて、口頭でも論理的にやりとりをする能力（プレゼンテーション能力及び傾聴力）を磨くために設けられた講座です。</p>	
評価方法	
授業への参加及び人と積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢を重視します。平常点（課題提出等、約40%）とレポート（約60%）で評価を行う予定です。	
教科書	
プリントを配布する	

日本語表現法①	秋 週1回 1単位
担当者：菊池 有希/北村 淳子/副田 恵/松村 良	
講義の目標及び概要	
<p>◆内容◆ 本講義では、言語技能の基礎をより細かく学び、確実に身につけていくことを目指す。敬語の使い方や文体、語彙力など、レポートや論文の基礎となる事項を学ぶ。問題形式のテキストを使用することにより、自分の表現力の進歩を確認していく。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ◆ 1年生秋学期の必修科目である。基礎教育入門「書き方」では、大学生活に必要な表現力の概略を学んだ。ここでは、表現の基礎となる言語事項を確実なものとしていく。一見、学習内容が後戻りするかに見えるのは、概略から詳細へという道筋をたどるからである。</p> <p>◆学びの意義と目標◆ ともすれば、言語技能面に無関心な態度で論文やレポートを書いてしまいがちであるが、内容面が優れていても、それを伝える技能、すなわち使用語彙や文法などが十分でなければ、優れた論文やレポートになり得ない。本講義によって、その基礎技能を確実に身に付けていくことになろう。</p>	
評価方法	
出席および授業中に出された課題の取り組み姿勢と提出物により、評価する（出席 30%、参加態度 20%、提出物 50%）。ただし、AHレポートの提出を絶対条件とする。	
教科書	
名古屋大学日本語研究会GK7著『スキルアップ！ 日本語力 大学生のための日本語練習帳』東京書籍	

日本語表現法②	春 週1回 1単位
担当者：松村 良/坂巻 理恵子/副田 恵/中島 佐和子	
講義の目標及び概要	
<p>◆内容◆ 本講義では、論理的な文章の表現方法を中心に学ぶ。その学びの基礎の上に、レポートや論文の書き方の基本を身に着けることを目指す。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ◆ 2年生春学期の必修科目である。基礎教育科目「書き方」、日本語表現法(1)で学んだことを基礎として、大学生活で必要とされる、より高度な表現力を身につける。</p> <p>◆学びの意義と目標◆ 大学生活ではレポートや論文を書く機会が多い。それらを書き上げる力を身につけることは、これからの学生生活に直接大いに役立つだろう。</p>	
評価方法	
出席および授業中の課題への取り組み姿勢と提出物により、評価する（出席30%、参加態度20%、提出物50%）。	
教科書	
速水博司『大学生のための文章表現入門』蒼丘書林	

日本史	春 秋 週2回 4単位
担当者：山田 康弘	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 戦国時代から現代にいたる五百年にわたる日本の歴史をわかりやすく解説していく。まずは、信長や秀吉が活躍した戦国時代をとりあげる。次いで、日本型組織経営システムが生み出されていった江戸時代や、日本が近代化を推し進めていった明治・大正時代、そして「太平洋戦争」の起きた昭和の時代をとりあげてそれぞれの特徴を検討し、最後に、苦悩する現代日本などを考察しながら、日本の歴史を概観していく。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 通史であり、入門的な位置づけである。</p> <p>3. 学びの意義と目標 「歴史を学ぶ」ということは、単に過去を知るのではなく、現代を知ることである。私たちにとって現代はあまりにも「当たり前」な存在であり、それゆえ、私たちが現代の真の姿を見きわめることは容易ではない。そこで、過去を知り、過去と現代とを比較することで「本当の現代」を知るのである。本講義では、学生諸君が単に過去だけでなく、過去をつうじて現代の「本当の姿」を知るきっかけを得ることができるようしていく。</p>	
評価方法	
毎回講義の最後に行なう小テストの成績を重視する。最終評価は、小テストの成績(40%)＋期末試験の成績(40%)＋受講態度(20%)の割合で決める。なお、欠席者と遅刻者は厳しく減点するので注意すること。	
教科書	
プリントを配布する	

日本史	秋 週2回 4単位
担当者：川崎 司	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 時の流れとともに、心象を反映する「ことば」が次々と生み出されてきた。私たちは今、その言葉の海にたゆたいながら、新たなコンパスを探しているところだ。先人の遺した、心に響く言葉を手がかりに、時代を超越した普遍的なるものを求めて(歴史)の海原に泳ぎ出よう。自分探しの旅に立とう。新旧の名言を、映像の力を借りながらじっくり味わっていく。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 本講は、教養科目・総合科目の一つである。</p> <p>3. 学びの意義と目標 喜怒哀楽を共にし、歴史から学ぶ喜びを共有したい。視野が広がり感性がますます磨かれ、人生に輝きが増せば幸いである。</p>	
評価方法	
出席状況、期末テスト、レポートをほぼ同程度に見る。	
教科書	
プリントを配布する	

日本史概説A	春 週1回 2単位
担当者：東島 誠	
講義の目標及び概要	
<p>◆講義内容◆ 「日本」という国はいつ誕生したのか。おそらく諸君は「縄文時代の日本」や「日本における稲作の始まり」といった表現に、何の違和感もなく慣れ親しんできたことであろう。だが、縄文時代や弥生時代には、まだ「日本」という名の国家は存在しなかった。まずはそのあたりから、諸君の常識、既成の歴史像に、心地よい揺さぶりをかけていきたい。</p> <p>◆カリキュラム上の位置と目標◆ 1年次から履修できる日本文化学科の選択必修科目で、政治経済学部社会科学教職科目。高校までの知識重視の歴史とはひと味違う、「考える歴史」を体験してほしい。なお、概説Aでは中世前期までの歴史を扱う。概説A・Bに挟まれた中世後期の歴史については、2年次以降、「日本史の研究(中世史特論)」で深く掘り下げて学ぶことができる。</p> <p>◆学びの意義◆ 結論は一つではない——この講義では時に、対立する学説を諸君に投げかけることがある。どちらがより説得的か?それを判断するのは君たち自身だ。大学の歴史の講義とはじつは、論理的思考力を鍛錬する場なのである。</p>	
評価方法	
学期末試験(60)＋授業内での提出カード(40+優秀者には加点あり)。	
教科書	
プリントを配布する	

日本史概説B	秋 週1回 2単位
担当者：東島 誠	
講義の目標及び概要	
<p>◆講義内容◆ 概説Bでは、近世以降の歴史を扱うが、わずか十数回では、もちろんすべてをカバーすることはできないし、カバーしようとする高校の授業と大差ない、駆け足のものとなりかねない。いきおいテーマは(選択)を余儀なくされるが、ここでは特に、時代像がイメージでき、「考える歴史」が体験できるテーマを、精選して提供していきたい。</p> <p>◆カリキュラム上の位置と目標◆ 1年次から履修できる日本文化学科の選択必修科目で、政治経済学部社会科学教職科目。高校までの知識重視の歴史とはひと味違う、「考える歴史」を体験してほしい。なお、概説A・Bに挟まれた中世後期の歴史については、2年次以降、「日本史の研究(中世史特論)」で深く掘り下げて学ぶことができる。</p> <p>◆学びの意義◆ 結論は一つではない——この講義では時に、対立する学説を諸君に投げかけることがある。どちらがより説得的か?それを判断するのは君たち自身だ。大学の歴史の講義とはじつは、論理的思考力を鍛錬する場なのである。</p>	
評価方法	
学期末試験(60)＋授業内での提出カード(40+優秀者には加点あり)。	
教科書	
プリントを配布する	

日本事情(文化)	秋 週1回 2単位
担当者：内藤 みち	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>日常目している日本の伝統的な事物を取り扱う。それら事物の「色」や用いられる「鮑」「鯛」などの持つ意味や、「節句」「土俵祭り」「凧」「障子」等々がどのように伝わってきたのか、また、「地名」「家紋」等に含まれる意味などを学ぶ。日本文化を特徴を取り上げるために、他文化の事物も必要に応じて比較対象とする。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>日本文化についてのイントロダクションとしての科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>日本文化にある意味や規則性を理解し、グローバル社会の中、日本のみならず異文化の中にもその文化独特の規則性や意味があることを意識し自らその文化の特質を導き出せるようになる。</p>	
評価方法	
<p>中間試験40%、学期末試験40%、平常点20%。 ※ 欠席が全授業数の3分の1を超える場合は評価対象とならない。</p>	
教科書	
武光誠『図解版「常識として知っておきたい日本のしきたり」』廣済堂	

日本思想	春 週2回 4単位
担当者：村松 晋	
講義の目標及び概要	
<p>[授業内容]</p> <p>先人の営んできた思想・思考の歴史には、皆さんが自己と自己をとりまく社会とを批判的に問い質し、借り物でない独自の視点を構築していくために学ぶべきことがら、数多く散りばめられている。本講義では通史的に、その主要なものを提示することで、皆さんの「常識」に創造的なゆさぶりをかけてみたいと思っている。</p> <p>[カリキュラム上の位置づけ]</p> <p>日本を場とする歴史・思想に関する教養科目である。なお学生の皆さんからの質問等に応じ、授業計画に変更が生じる場合がある。</p> <p>[学びの意義と目標]</p> <p>受講者みずから、これまでに教え込まれた「知識」を主体的に検証し、自分なりのものの見方を構築していくきっかけを手に入れること。</p>	
評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 期末試験によって評価する。 ・ 出席は毎回取る。 ・ 全授業数の三分の一以上欠席したのものには期末試験の受験資格を与えない。 	
教科書	
プリントを配布する	

日本思想	秋 週2回 4単位
担当者：清水 正之	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>日本の思想を学ぶことは、自らの内にながれている思考形式や、宗教観・道徳意識等をふりかえることでもあります。この講義では、大きく視野をとって、日本の思想のながれを古代から近代まで概観し、そこから私たちが考えるべきことを抜き出していきたいと思えます。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 日本思想についての入門的なものです。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>日本の思想の歴史は、近代以前は、中国大陸を経由した文化・思想の、近世後期以降は、欧米の文化・思想の受容の歴史でもあります。そうした対外的な動向にも目を配りながら、先人達が何を受容し、何を選択し、そして深化させてきたかと学んでいきます。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>日本の思想を学ぶことは、自己の内に流れている意識を対象化することでもあります。</p> <p>以上のような観点から、日本の思想が何を問題として何を解こうとしたのかを考えてみたいと思えます。理解を助けるためビデオ等も利用して進めます。</p>	
評価方法	
<p>期末は筆記試験を課します(50%)。 また学期を通じて4回ほどの小レポートを課します。出席状況(30%)、小レポート(20%)、それと期末試験とで総合的に成績評価をします。</p>	
教科書	
清水正之『日本の思想』放送大学教育振興会	

日本思想概説	春 週2回 4単位
担当者：清水 正之	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>日本の思想は、日本列島の上で生成し展開してきた自己意識の歴史でもあります。「哲学」という思想形式をなगतないできた日本では、思想は学問や宗教として、あるいは文芸や芸術思想という形で、続いてきました。この講義では、そうした思想表現にも目を配りながら、古代から近代に至る日本の思想の歴史を概観します。日本の思想は、近代以前は、大陸を経由した先進文化・思想の、近世後期以降は、欧米の先進文化・思想の受容によって始まりますが、またその「選択的な」深まりをも示しています。日本の置かれた国際的関係の意味なども、思想の歴史を考えるに、重要なポイントです。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ。思想の通史であり、入門的かつ基礎的なものです。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>日本の思想を学ぶことは、自己の内に流れている意識を対象化することでもあります。</p> <p>以上のような観点から、日本の思想が何を問題として何を解こうとしたのかを考えてみたいと思えます。思想の学習は、思想の原典テキストを読むことが基本ですが、理解を助けるためビデオ等も利用します。</p>	
評価方法	
<p>学期の途中で課す最低4回ほどの小レポート(25%)と出席状況(25%)を重視します。期末には本格的なレポートを課しますが(50%)、両方を加味して、成績評価とします。</p>	
教科書	
清水正之『日本の思想』放送大学教育振興会	

日本思想特殊講義	秋	週2回	4単位
担当者：村松 晋			
講義の目標及び概要			
[授業内容] 「3.11」以降の歴史を生きる私たちにとって、自己と自己を取り巻く社会とを批判的に問い質し得る視座を構築することは喫緊の課題である。そのための具体的な手立てを探るべく、近現代日本の思想史を(宗教を含む)、時事問題等をも絡めながら、問題提起的に講義する。思想・宗教のみならず、「戦争と革命の世紀」といわれる「20世紀の歴史」に関心を有するものの受講を歓迎する。			
[カリキュラム上の位置づけ] 3、4年生向けの特殊講義である。時事問題を意識して講義を進めていくだけに、授業計画に変更が生じる場合がある。 [学びの意義と目標] 現代日本の諸課題は、近代日本の直面した問題の圏内から原理的に抜け出していないことについて理解を深めること。			
評価方法			
・期末試験によって評価する。 ・出席は毎回取る。 ・全授業数の三分の一以上欠席したのものには期末試験の受験資格を与えない。			
教科書			
プリントを配布する			

日本思想入門	秋	週1回	2単位
担当者：村松 晋			
講義の目標及び概要			
[授業内容] 先人の営んできた思想・思考の歴史には、皆さんが自己と自己をとりまく社会とを批判的に問い質し、借り物でない独自の視点を構築していくために学ぶべきことがら、数多く散りばめられている。本講義では通史的に、その主要なものを提示することで、皆さんの「常識」に創造的なゆさぶりをかけてみたいと思っている。			
[カリキュラム上の位置づけ] 文字通り、歴史・思想に関する入門科目である。1・2年次の履修が望ましい。なお学生の皆さんからの質問等に応じ、授業計画に変更が生じる場合がある。			
[学びの意義と目標] 受講者みずから、これまでに教え込まれた「知識」を主体的に検証し、自分なりのものの見方を構築していくきっかけを手に入れること。			
評価方法			
・期末試験によって評価する。 ・出席は毎回取る。 ・全授業数の三分の一以上欠席したのものには期末試験の受験資格を与えない。			
教科書			
プリントを配布する			

日本思想文化研究	春	週1回	2単位
担当者：清水 正之			
講義の目標及び概要			
【キリスト教と日本の宗教的心性】 最初のキリスト教と西洋文化との受容の局面を、キリスト教と日本の宗教的心性との出会いとして思想史的に考察し、その意味を考えることが、この授業のねらいである。キリシタン宗教思想の伝来は、その後の禁教政策、鎖国政策という形で後世に多大な影響を与えることとなった。キリスト教・一神教は、近世の日本の思想に陰に陽に意識され続ける。キリシタンの思想は、在来のとくに禅仏教との論争という形でまず対峙したが、ついで儒教思想との対峙とすすんだ。キリシタンの伝来から、西洋認識を改めることとなった新井白石とシドッチの対面まで、ほぼ160年が過ぎた。授業では、従来の研究史を振り返りつつキリシタン宗教思想の必須文献によって、その伝来の経緯と意味を考察する。 キリスト教との接触は、同時に、東アジア規模の事件でもあった。明末から清朝における宣教師の活動の歴史、また朝鮮王朝での受容は、儒教的世界とキリスト教との接触・受容・摩擦をへて、遠く現代のキリスト教をめぐる東アジア世界での諸問題とも関わっている。そうした点も視野に入れていきたい。			
評価方法			
出席30% 課題報告40%、レポート30%により総合的に評価する。			
教科書			
プリントを配布する			

日本史特殊講義	春	週2回	4単位
担当者：東島 誠			
講義の目標及び概要			
◆講義内容◆ 古文書・古記録などの「史料」には、いまだ誰も論じていない未発見・未解明の事実が、それこそ無数に埋蔵されている。この講義では、「史料」を読む力を初歩から養成しながら、歴史家が歴史を再構成していくプロセスの醍醐味を、多角的に学び、体験していただくことになる。			
◆カリキュラム上の位置と目標◆ 3～4年生を対象とする専門科目。2010年度より内容を一新して再スタートした、選択必修科目である。2回に1回の割合で、毛筆のくずし字を楽しみながら読めるようになるための、「特別演習指導」もあわせて受けることが出来る。			
◆学びの意義◆ 既存の学びに飽き足りない諸君に向けて、「聖学院大学以外でも通用する学び」を提供していくつもりである。			
評価方法			
中間試験・学期末試験のうち得点率の高い方(50) + 中間試験・学期末試験のうち得点率の低い方(20) + 授業内での提出カード(30 + 平常点の優秀者には加点あり)。			
教科書			
プリントを配布する			

日本史の研究(キリスト教史特論)	秋	週1回	2単位
担当者：川崎 司			
講義の目標及び概要			
<p>1. 内容 自らの〈研究〉を通して得た晴れやかな感動を少しでも心の奥に届けることで、若い皆さんがその命の内に「神」から恵まれた〈賜物〉を発見し、未来の開拓者になっていくきっかけになればと願っている。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ キリスト教入門の科目として位置づけ、〈永遠の生命〉とは何か一緒に考えていきたい。</p> <p>3. 学びの意義と目標 私たちの先達の〈信仰〉に想いを寄せながら、明日をより良く生きるための新たな手がかりを見だし、波高いこの世のあるべき姿について考えを深めていきたい。</p>			
評価方法			
出席状況、期末テスト、レポートをほぼ同程度にみる。			
教科書			
プリントを配布する			

日本史の研究(近世史特論)	春	週1回	2単位
担当者：上安 祥子			
講義の目標及び概要			
<p>◆内容◆ 江戸時代に生きた人々の生活感覚を垣間見ることができる史料にふれ、江戸という時代と社会の意識や志向、社会情勢を読み解く。まずは史料を目にする、あるいは実際に手にとってみる、ということからはじめて、調べる、読む、考える、という手順をふんで、歴史を研究する基礎的な作業を体験し、学ぶ。 (文字史料は、原文と読み下し文を配布プリントに併記。読み方や意味などは、授業時間内に確認・理解できるよう、授業をすすめる。)</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ◆ 2～4年生を対象とする専門科目。</p> <p>◆学びの意義と目標◆ 史料にもとづいて歴史を読み解くプロセスを学ぶとともに、地図や風刺画をはじめ、さまざまな史料にふれて、政治的な事件を追うだけではなく、文化や思想から歴史を「思考する」視点を身につけることをも目指している。</p>			
評価方法			
<p>■カード40%＋試験60%…カードは毎授業提出する簡単な小レポート。</p> <p>■出席回数が全授業回数の3分の2に達しない場合、評価の対象外。公欠が含まれる場合も、欠席が全授業回数の2分の1以上になれば、評価の対象外。</p>			
教科書			
プリントを配布する			

日本史の研究(近代史特論)	春	週1回	2単位
担当者：川崎 司			
講義の目標及び概要			
<p>1. 内容 過去は未来のためにある。知ることを学ぶことによって、私たちは誤りのない〈歴史〉を次の世代へ送り届ける役割を担っている。歴史の傍観者であっては決してならない。自ら主体的に参加していかなければならない。本授業では、日本近代史に焦点を当て、国家を絶対的な基準とするテキストには十分に書かれていない、これまで見過ごされてきた出来事や人物にも光を当てるなど、様々な視点や視座から検証を重ね、すでに出来上がってしまった〈歴史〉を見直したい。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ これまで学んできたテキストの枠を超えて、歴史の見方をより深めていく。</p> <p>3. 学びの目標 〈歴史〉を創ってきた無数の人々の記憶の中に、明日をよりよく生きるための新たな手がかりを見だし、波高いこの世を乗り越えていくエネルギーとしたい。</p>			
評価方法			
出席状況、期末テスト、レポートをほぼ同程度に見る。			
教科書			
プリントを配布する			

日本史の研究(現代史特論)	秋	週1回	2単位
担当者：川崎 司			
講義の目標及び概要			
<p>1. 内容 「昭和」という時代を体現する存在であった昭和天皇が、運命の岐路に立って何を思い何を決断したのかを記録した映像『昭和天皇の時代』(保阪正康監修)をテキストに、NHK制作の最新映像も参考にして、激動の20世紀を振り返り、歴史の真相に少しでも迫りたい。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 春学期の『日本史の研究(近代史特論)』と密接に繋がっているため、できれば併せて受講してもらいたい。</p> <p>3. 学びの意義と目標 逆境や困難にも負けず生き抜いた私達の先輩の〈想い〉に寄り添いながら、真実を見つめる眼を養い、この世のあるべき姿を見極め、明日への確かな歩みを進めるための糧としたい。</p>			
評価方法			
出席状況、期末テスト、レポートをほぼ同程度にみる。			
教科書			
プリントを配布する			

日本史の研究(古代史特論)	春 週1回 2単位
担当者：稲田 奈津子	
講義の目標及び概要	
【内容】 飛鳥・奈良時代に登場し消えていった、古代の「墓誌」に注目する。現代に残されたヒントの少ない古代史を理解するためには、学問分野の枠にとらわれない多角的な見方が必要である。文字資料であると同時に考古遺物でもあり、東アジア文化圏のひろがりやを体現する「墓誌」を、様々な視角から考えていく。 【カリキュラム上の位置づけ】 2～4年生を対象とする新設の専門科目。 【学びの意義と目標】 断片的な史資料から、いかに多くの情報をひきだし、それをもとに歴史像をいかに描いていくかが、古代史研究の醍醐味である。授業では、具体的な事例をとりあげつつ進めるので、そうした思考過程を体験してほしい。	
評価方法	
学期末試験60%+授業内での提出カード40%（毎時間提出、優秀者には加点あり）	
教科書	
プリントを配布する	

日本史の研究(中世史特論)	秋 週1回 2単位
担当者：東島 誠	
講義の目標及び概要	
◆講義内容◆ 東洋史学者内藤湖南には、今日の日本を知るには、応仁の乱以後の歴史を知っていれば十分、とする著名な講演（1921年）がある。戦国時代以前の中世は近代とはまったく異質な社会であった、とするその大胆な仮説の一方、現代社会は再び中世に向かっているかのようであり、中世史ブームが再燃しつつある。本講義では、南北朝時代から戦国時代に至る、中世後期の社会を深く掘り下げていく。 ◆カリキュラム上の位置と目標◆ 2～4年生を対象とする新設の専門科目。今に遺された古文書や日記、文学作品などから歴史を研究する手続きを、初歩から学ぶことを目標とする。 ◆学びの意義◆ 諸君が書店で手に取ることのできる歴史書の舞台裏、つまり〈史料から歴史を描き出す現場〉へと案内する講義である。	
評価方法	
学期末のまとめ（60）+授業内での提出カード（40+優秀者には加点あり）。	
教科書	
東島 誠『選書日本中世史2 自由にしてケシカラン人々の世紀』講談社	

日本政治史	秋 週2回 4単位
担当者：吉田 博司	
講義の目標及び概要	
1. 内容 明治、大正、昭和戦前期の政治史をふりかえります。明治維新はなぜ起きたのか。明治憲法はどのような背景で成立したのか。日本の議会政治はどのように発展し、挫折したのか。こうした内容を近代日本の政党政治発展というテーマを根底にすえていきます。人物論もおり込み、生きた政治史理解をめざします。 2. カリキュラム上の位置づけ 政治学系の専門科目ですので、かなり詳細な歴史探求となります。 3. 学びの意義と目標 現代政治の理解は歴史的考察をふまえることで深められるでしょう。歴史は現代なのです。	
評価方法	
平常点（毎回のアチーブ式評価） 60点 テスト 40点 詳しくは初回の授業で説明する。	
教科書	
授業の中で指示する	

日本政治思想史	春 週2回 4単位
担当者：吉田 博司	
講義の目標及び概要	
1. 内容 近代日本の政治思想史ですが、思想と時代との関わりを重視しますので、日本近代史と重なる部分があります。また、精神的考察という立場から心理-歴史的な思想史を目指します。具体的には、福澤諭吉の開かれた精神にはじまり、上杉慎吉の閉じた精神(団体思想)、大正デモクラシーの開かれた政治思想(吉野作造)、昭和期における閉じた精神の復活(昭和維新)、近代日本と社会主義思想(山路愛山)、軍国主義下での自由主義の精神(馬場恒吉)、学生の社会運動(新人会)を検討していきます。 2. カリキュラム上の位置づけ この科目は政治学系の理論的専門科目ですので、かなり深いレベルの歴史探求となります。 3. 学びの意義と目標 思想史は結局、人間精神の探求です。時代と格闘する人間の根底を見つめましょう。	
評価方法	
平常点（毎回のアチーブ式評価） 60点 レポート 40点 詳しくは初回の授業で説明する。	
教科書	
吉田博司『近代日本の政治精神』芦書房	

日本政治論	春 週2回 4単位
担当者：吉田 博司	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 日本の政治を制度、文化、人物、外交、内政の総合的視座から検討する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 政経学科の五本の柱の一つ政治学系の専門科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 日本の政治を制度面で知るだけでなく総合的視座からとらえる。</p>	
評価方法	
平常点（毎回のアチーブ式評価）60点 テスト40点	
教科書	
授業の中で指示する	

日本の経営論	秋 週1回 2単位
担当者：清澤 達夫	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 本講義は、「近江商人」の労働観を手がかりに、欧米の会社を支えているM. ウェーバーの「プロテスタンティズムの倫理」に対する、わが国独特の勤勉の精神を鈴木正三、石田梅岩、二宮尊徳などから学んでいく。なかでも、日本のカイシャの特徴がはっきり出てくる人事制度、生産システム、意思決定を中心に欧米の経営システムと比較しながら日本の経営のあり方を考えていってみたい、と思います。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 就職が厳しさを増しております。その理由は幾つかあるのですが、学生の側にも日本のカイシャについての認識がない、こともあるのではないのでしょうか。本講義は、就業力の助けになればと考えている。</p> <p>3. 学びの意義と目標 日本のカイシャと欧米の会社を成り立たせている労働観を支えているものから解きほぐし、日本のカイシャに流れている特殊性と普遍性を知ること、間接的に就活に寄与するものと考えている。</p>	
評価方法	
評価は、出席が50%、期末定期試験が50%です。	
教科書	
プリントを配布する	

日本の演劇(中世・近世)	春 週2回 4単位
担当者：寺田 詩麻	
講義の目標及び概要	
<p>(1) 日本の中世・近世に誕生し発展した芸能である能・狂言・文楽（人形浄瑠璃）・歌舞伎のなりたちと特性について、後半は歌舞伎中心となりますが、教科書と、必要に応じてプリント教材・映像資料を使いながら解説します。</p> <p>(2) 日本文化学科の専門科目「文化」科目に属します。</p> <p>(3) 演劇はどのような文化においても、その文化の中で生きている人間の生活や思考を表現する方法として重要です。能・狂言・文楽・歌舞伎は何百年もの間、昔の人たちの生活や思考のありさまをよく伝える演劇として、時代に合わせて上演のしかたを変化させながら、現在もさかんに上演されています。</p> <p>近年、これらの芸能は文化的な重要性を広く認められるようになり、20代から40代の役者も多く、同世代の観客を集めようと意欲的な公演を行っています。興味を持ったら、見たい公演を自分で調べて実際に劇場で見ることを強くおすすめしますが、この授業がきっかけのひとつになればと考えています。</p>	
評価方法	
毎回の出席カードへの感想・疑問点などの記入（50%）と期末レポート（50%）の総合で評価します。レポートの課題は第1回のガイダンスで提示します。3000～4000字以内。	
教科書	
古井戸秀夫 編『新潮日本文学アルバム 歌舞伎』新潮社	

日本の音楽A	春 週1回 2単位
担当者：鈴木 英一	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 指導要領に和楽器が導入され、メディアに津軽三味線などの若き邦楽ミュージシャンが取り上げられ、現在は小さな邦楽ブームといえる状態にある。これは日本音楽が「見直された」結果であろうか、あるいは若者たちが耳慣れない音楽を新たに「発見」した状況なのであろうか。それとも伝統音楽の変質か。日本音楽の存在価値を見極めてみたい。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 「A」では主に近世以前の音楽を中心に扱い、各ジャンルについて随時補足する。</p> <p>3. 学びの意義と目標 まず重層的な日本の伝統音楽を紹介する。雅楽・能楽・浄瑠璃・近世三味線）邦楽・洋楽流入……現代音楽まで、各時代の代表的な音楽が、いまなおライブで聞くことができるのが日本文化の特異性である。これらを実際に鑑賞し、そのそれぞれの文化としての特殊性と、音楽としての普遍性を検証することを主な目標とする。さらに講師は邦楽演奏家でもあるので、授業の中で実際に和楽器や歌唱を体験させることも考えており、今まで培ってきた音楽観を問い直して貰いたいと思う。</p>	
評価方法	
講師が紹介する日本音楽の公演、或いは音盤を鑑賞した上で、授業内容が反映されたレポートを提出して貰う。期末レポート80%、平常点20%で評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

日本の音楽B	秋 週1回 2単位
担当者：鈴木 英一	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 指導要領に和楽器が導入され、メディアに津軽三味線の若き邦楽ミュージシャンが取り上げられ、現在は小さな邦楽ブームといえる状態にある。これは日本音楽が「見直された」結果であろうか、あるいは若者たちが耳慣れない音楽を新たに「発見」した状況なのだろうか。それとも伝統音楽の変質か。日本音楽の存在価値を見極めてみたい。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 「B」では近世以降の劇場音楽を中心に扱う。</p> <p>3. 学びの意義と目標 まず重層的な日本の伝統音楽を紹介する。雅楽・能楽・浄瑠璃・近世（三味線）邦楽・洋楽流入……現代音楽まで、各時代の代表的な音楽が、いまなおライブで聞くことができるのが日本文化の特異性である。これらを実際に鑑賞し、そのそれぞれの文化としての特殊性と、音楽としての普遍性を検証することを主な目標とする。さらに講師は邦楽演奏家でもあるので、授業の中で実際に和楽器や歌唱を体験させることも考えており、今まで培ってきた音楽観を問い直して貰いたいと思う。</p>	
評価方法	
講師が紹介する日本音楽の公演、或いは音盤を鑑賞した上で、授業内容が反映されたレポートを提出して貰う。期末レポート80%、平常点20%で評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

日本の思想(キリスト教)	春 週1回 2単位
担当者：村松 晋	
講義の目標及び概要	
<p>[授業内容]</p> <p>キリスト教をめぐって繰り広げられた、思想上の数あるドラマについて多角的な視点から考察を加えることにより、「キリスト教」ならびに「日本史」へのイメージを刷新し、その実像に迫る手立てを獲得してもらおう。さらに「3.11」以後の歴史を生きる皆さんが、(生きることの意味)を主体的に考えていけるような授業を心がけていく。</p> <p>[カリキュラム上の位置づけ]</p> <p>「関連文化」「日本思想入門」を併せて受講することが望ましい。なお学生の皆さんからの質問等に応じ、授業計画に変更が生じる場合がある。</p> <p>[学びの意義と目標]</p> <p>キリスト教はもちろんのこと、日本の歴史・思想全般を視ていくための新しい視点を獲得し、上記領域への関心を深めていくこと。</p>	
評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験によって評価する。 ・出席は毎回取る。 ・全授業数の三分の一以上欠席したものは期末試験の受験資格を与えない。 	
教科書	
プリントを配布する	

日本の思想(儒教)	秋 週1回 2単位
担当者：上安 祥子	
講義の目標及び概要	
<p>◆内容◆</p> <p>日本の思想家たちは、儒教の概念や理論を用いて、何を語ったのか？ 儒教が経済や政治を論じる言説として、積極的に現実の社会と切り結んでいた近世において、〈公共性への志向〉という潮流が立ち現れてくる。何が問題として見出され、それを解決するために、何がどのように表現されたのか。歴史や社会の変容を多層的にとらえることを可能にするために、問題を解決する方途として、実現されたものだけではなく、模索された選択肢をも分析しながら、その潮流をたどっていくこととしたい。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ◆</p> <p>2～4年生を対象とする、〈歴史・思想系統〉の専門科目(選択科目)。</p> <p>◆学びの意義と目標◆</p> <p>本講義は、近世という過去の時代における〈公共性〉観念の形成を明らかにするだけではない。未来に向けた〈公共性〉の構築という、現代的な課題としてとらえ直し、ひとりひとりがその課題に向き合うきっかけの場となることを目指す。また、日本の儒教を探究し、思想を学ぶ方法論にふれることを通じて、論理的思考力を鍛えることも重視する。</p>	
評価方法	
<p>■カード40%+試験60%…カードは毎授業提出する簡単な小レポート。</p> <p>■出席回数全授業回数の3分の2に達しない場合、評価の対象外。公欠が含まれる場合も、欠席が全授業回数の2分の1以上になれば、評価の対象外。</p>	
教科書	
プリントを配布する	

日本の思想(仏教)	春 週1回 2単位
担当者：高山 秀嗣	
講義の目標及び概要	
<p>(内容)</p> <p>本講義では、日本の歴史上における仏教の推移過程についてさまざまな角度から検討を行っていく。日本仏教史の流れを概観することで、仏教を取り巻く周辺状況である日本の思想や文化などについても視野を広げて学びを深めていくことを目的とする。最初は講義形式を取るが、テーマを決めてグループ発表も行う予定にしている。</p> <p>〈学びの意義と目標〉</p> <p>日本仏教史を通史的に概観することにより、日本仏教が社会のさまざまな分野と関わりながら展開してきたことを具体的に学んでいく。また発表を行うことにより、調べ学習や発表の練習などにもなる。</p>	
評価方法	
出席(3分の2以上出席のこと・30%)・グループ発表(20%)・レポート(50%)	
教科書	
廣澤隆之『図説あらすじでわかる 日本の仏教とお経』青春出版社	

日本の美術	秋 週2回 4単位
担当者：佐伯 英里子	
講義の目標及び概要 授業のねらいと概要 日本美術の大きな流れは、他の文化領域と同様、常に外来の刺激を受け(近代以前は主に中国、以降は西欧諸国)その摂取消化を繰り返してきた。しかしそこには常に独自の日本的受容の姿勢、日本的な嗜好の選択が働いていたといえよう。本講義では、そうした外来と和との融合相克のなかで、一貫して変わらず続いてきた日本美術の実態を明らかにすることを目標に、絵画史を中心に概観したい。 カリキュラム上の位置付け 真の国際化が求められる現在、アニメや漫画など、日本のヴィジュアルイメージの発信力は世界的注目を集めている。本講義では、そうした視覚芸術に興味を持つ意欲的な生徒の履修を推奨する。 学びの意義と目標 美術作品を単に感覚的に受け止めることから一歩進んで、表現の背後にある意味を読み解き、より深く鑑賞することにより、現在の問題意識ともリンクさせて考える力を養うことが期待される。	
評価方法 試験50%、課題レポート30% (自主レポートは加点) 出席率20%	
教科書 辻惟雄監修『日本美術史ハンドブック』新書館	

日本のポップ・カルチャー	秋 週2回 4単位
担当者：清水 均	
講義の目標及び概要 1、内容 「文化」は私たちにとって何らかの価値や意味があるとされる。特に、私たちの日々の営みと地続きの地平に存在するポップ・カルチャーは、意識的にも無意識的にも私たちの生活様式や生活感情そのものに価値や意味をもたらすものであるといえ、私たちは嫌でもポップ・カルチャーの影響下にあるといえる。この授業ではそうした視点に立って、2000年代(0年代)を中心とした想像力、表現力の有り様を検証することを通じて、私たちの現在地を確認してみたい。 2、カリキュラム上の位置づけ カリキュラム上では「文化」の領域に設定されているが、「文化」そのものの意味を問うことを目指しているため、どのジャンルに関心を持つ学生も、あるいは他学科の学生にも「文化学」の基礎として受講してもらいたい。 3、学びの意義と目標 昨今、日本のポップ・カルチャーは「クール・ジャパン」として海外からも注目されているが、その実態を検証することで学生個々の生の現場というものを確認してもらいたい。	
評価方法 (1)出席点:50% (2)最終レポート:40% (3)授業で課す課題:10%	
教科書 プリントを配布する	

日本の民俗	秋 週2回 4単位
担当者：及川 高	
講義の目標及び概要 【内容:日本の民俗文化を知る・考える】 民俗とはごく普通の人々が生活のなかで特に意識することもなく営んでいる「あたりまえ」の文化のことである。しかしながらそのような「あたりまえ」をよくよくみてゆくと、そこには歴史的背景や意外な合理性がひそんでいることに気づかされる。本講義は日本を中心にその民俗文化の基本的知識を学ぶことを目的としている。 【カリキュラム上の位置づけ】 日本の民俗文化に関する入門として位置づけられる。 【学びの意義と目標】 国際化の流れのなかで異なる文化的背景をもつ人々と交流をもつ機会はますます増えている。本講義の目的は日本人の「あたりまえ」を客観的に見直すための知識を学ぶことで、これからの国際社会で生きていく学生に、自ら文化摩擦を乗り越えていく力を身につけさせることにある。	
評価方法 試験(70%)と平常点(30%)で評価する。目安として5回以上の欠席があった場合、原則的に成績評価をつけられないため注意すること。	
教科書 プリントを配布する	

日本文学概説	春 週2回 4単位
担当者：黒木 章	
講義の目標及び概要 【内容】輪切り近代文学史。1868年の明治維新以来の日本近代の作品をおおよそ10年ごとに輪切りにしてその年々に発表された小説類を読んで、作品の時代背景や作家自身の課題を重ねながら講読する。 【カリキュラム上の位置付け】日本近代文学入門。よく話題にされ、受験勉強などでも出てきたものでありながら、未だ読んだことがないような代表的で有名な作品を読んで、文学する楽しみや読みの醍醐味を味わう。作品によって駆け足になったり、精読になったりするが、小説読みの技術や方法を身につける。中高の国語教員免許取得を希望する人には選択必修科目である。 【学びの目標と意義】読みたいと思っていても大学入学以前には時間がなくて読めなかったような小説類は多いと思う。それらをとにかく読んでみよう、作品の内部にはどんな問題があるのか、なぜ話題にされるべき作品なのかなどを理解しながら日本近代文学史の大枠をつかみたいと思う。	
評価方法 ・担当者は参加者との対話を心掛けるので積極的な応答を重視する。普段の授業出席と参加態度を20%、中間試験を30%、学期末試験を50%とみる。	
教科書 プリントを配布する 森鴎外『舞姫』角川文庫 泉鏡花『高野聖』新潮文庫 谷崎潤一郎『青刺』新潮文庫 武者小路実篤『友情』新潮文庫 小林多喜二『蟹工船』新潮文庫 太宰治『走れメロス』新潮文庫 大岡昇平『野火』新潮文庫	

日本文学研究と批評(近現代①)	春 週2回 4単位
担当者：佐藤 ゆかり	
講義の目標及び概要	
<p>1. カリキュラム上の位置付け 日本の近現代文学作品の解釈と鑑賞を通して、作家、作品、時代背景、同時代評、表現 技法、文学史的背景、先行論文等も含めた基本的、総合的な研究法を学ぶ。</p> <p>2. 目標 (1)近現代文学の精読と、基本的、総合的な研究方法の習得。 (2)自分の意見を、根拠をもって論述する。 (3)卒業論文の執筆に役立つ基礎的な近現代文学の知識の習得。 なお、採り上げる作品については、変更する場合もある。</p> <p>3. 内容 日本の近現代の代表的作家による名作短編小説を採り上げ、学生の発表を中心に、講義 とディスカッションを交えて進める。</p>	
評価方法	
レポート(50%)、発表(30%)、授業への参加度(20%)により、総合的に評価する。	
教科書	
プリントを配布する	

日本文学研究と批評(近現代②)	秋 週2回 4単位
担当者：前田 潤	
講義の目標及び概要	
<p>◆芥川龍之介を中心とする大正・昭和期の「短編小説」を主な考察対象としながら、「文学」にアプローチする多様な視点や方法論(文学理論)に触れると共に、資料の探し方+使い方、立論に至るまでの正しい手続きなど、近現代文学研究の基礎を学ぶ。各テキストの成立過程の検証を通じて、文学作品がどのような文化・社会的条件のもとで、どのような歴史的限界を背負って誕生するのかをつぶさに検討する。</p> <p>◆文学研究・文化研究の基礎を学ぶ講座である。</p> <p>◆この講義では、近現代の文学テキストを精読し、先行する他者の見解を整理した上で、意識的に自己の意見形成をはかる訓練をしてもらいたいと考えている。意見を「作り」、わかりやすく「伝達する」ことを前提として、テキストを丁寧に「読む」講座である。</p>	
評価方法	
出席+毎回提出の小文(50%)、ならびに最終試験(50%)で評価する。	
教科書	
プリントを配布する	

日本文学研究と批評(近現代③)	秋 週2回 4単位
担当者：熊谷 芳郎	
講義の目標及び概要	
<p>◆内容◆ 本講義では、小中高校の国語教科書に多くとりあげられている教材を大学生の目で読み直していく。それによって、文芸批評の基礎的事項の習得を目指す。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ◆ 2年生以上が選択できる文学系統の科目である。文学研究・文学教材研究の基礎として、基礎的事項はできるだけ早い段階で身につけてほしい。文学系等に進みたい学生や国語科教職資格取得を目指す学生を想定した科目ではあるが、懐かしい教科書教材を読み直してみたいという学生も歓迎する。</p> <p>◆学びの意義と目標◆ 児童・生徒として学んでいたときには気づかなかった作品の「読み」に出会うことは、自分なりの新たな「読み」を構築するきっかけともなる。また、文学の新しい魅力との新たな出会いともなるかもしれない。</p>	
評価方法	
発表や意見の交換等、授業への参加状況の評価する(40%)。さらに中間・期末のレポートを行い(60%)、両者を総合して評価する。	
教科書	
プリントを配布する	

日本文学研究と批評(古典①)	春 週2回 4単位
担当者：高桑 佳與子	
講義の目標及び概要	
<p>〈内容〉歌物語の代表作としてポピュラーな『伊勢物語』を講読していきます。主人公である色好みの貴公子・在原業平の人間像は、作品の大きな魅力になっています。授業では、業平の生きた時代背景や風俗習慣を確認しつつ、丁寧な読みをしていきます。</p> <p>二条の後や伊勢の齋宮との許されない恋や、惟喬親王等との交流の中で詠まれた心打つ和歌の数々。『伊勢物語』は、それら業平の歌にまつわる話には、業平以外の人々の歌にまつわる物語も取り込みつつ、全体として業平のみやびの世界が形成されています。高等学校の古典教材としても広く親しまれているこの物語をあらためてじっくり味わっていきます。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉『伊勢物語』は平安中期の作品で、同時代の和歌集『古今集』と深い関わりを持っています。また『源氏物語』をはじめ、後世の文学作品にも影響を及ぼし、絵画等の題材にもなっています。これらとの関係、発展を考える上でも重要な作品です。</p> <p>〈学びの意義と目標〉在原業平という人物、また歌物語の形成への理解を深め、平安朝の美意識への理解も深めていきます。教職を目指す学生の古典対応力増強も目標です。</p>	
評価方法	
授業参加態度(25%) 授業時提出物(25%) 期末試験(50%)で評価します。	
教科書	
石田穰二『伊勢物語』角川ソフィア文庫	

日本文学研究と批評(古典②) 春 週2回 4単位	
担当者：松本 麻子	
講義の目標及び概要	
1. 内容 中世文学を代表する『方丈記』と『徒然草』を学びます。今年 は『方丈記』が書かれてから八百年目となりますが、鴨長明の生 きた時代は、天災や飢饉、源平の争乱があり人々の生活は大変で した。つらいことがあった時、人はどうやって前向きに生きられ るのか。長明は常に「人はどのように生きてゆくべきなのか」と 問いかけます。『徒然草』は全部で244段もの話がありますが、そ れをテーマごとになるべく多く読んでゆく予定です。『徒然草』 の魅力は、兼好の個性的な見方にあります。彼の考え方を、なん とうい偏見!と反論するのか、それとも「あるある」と共感するの か、じっくりと味わってみましょう。 2. カリキュラム上の位置づけ 『方丈記』『徒然草』を学ぶことで、中世隠者文学について理解 することができます。 3. 学びの意義と目的 古典の基礎的な知識と読解力を養成します。人間理解を深める ことも目的とします。	
評価方法 レポートと出席状況から判断します。授業ごとの感想文:30%、 出席:20%、期末レポート:50%	
教科書 プリントを配布する	

日本文学研究と批評(古典③) 秋 週2回 4単位	
担当者：上宇都ゆりほ	
講義の目標及び概要	
【内容】日本を代表する文学作品のひとつである『源氏物語』を 原文で読んでみよう。光源氏をめぐる女性たちのすがたをいきい きと感じることによって、平安時代の貴族の恋愛観や人生の苦悩 に迫りたい。また『源氏物語』とはどのような作品か、各巻から 抽出したエピソードを語る物語の一部を原文で読み解き、本作 品の魅力に迫りたい。今年は学生参加のスタイルで授業を進めるの で、初回の授業には必ず出席すること。 【カリキュラム上の位置づけ】2年生以上が選択できる文学系統 の科目である。春学期に古典日本語を履修した学生は、積極的に 古典作品に挑戦し、古典文学研究の方法を身に付けてほしい。 (古典日本語を履修していない学生も歓迎する) 【学びの目標と意義】辞書を片手に自力で古典作品を読解でき る力を養う。あわせて作品の時代背景を学び、王朝貴族の生き方 や価値観等についても考察する。	
評価方法 授業への出席(20パーセント)、討論への参加の状態と担当時の発 表を平常点(20パーセント)とし、それに学期末に提出するレポ ート(60パーセント)を加えて、総合的に評価する。	
教科書 角川書店編『角川ソフィア文庫ビギナーズ・クラシックス 源氏 物語』角川書店 『古典文法の教科書(各自のものでよい)』『古語辞典か電子辞書 (各自のものでよい)』	

日本文学史(近現代) 秋 週2回 4単位	
担当者：前田 潤	
講義の目標及び概要	
◆内容 明治初期から平成に至るまでの日本文学の歩みを概観する。画 期的な意味を持つ文学作品や文学者の動向に触れ、その歴史的位 置を確認すると共に、同時代の文化社会の中でそれらがどのよう な役割を果たしていたのかに言及する。特に政治や労働運動、活 字出版メディアの史的展開と文学言説との関わりについては詳し く見取り図を引いてゆきたい。授業では項目を挙げるだけの解説 は避け、記憶に残るような鮮烈な文学者の言動を紹介したいと考 えている。 ◆カリキュラム上の位置づけ 国語科教員資格取得者にとっての必修科目。もちろん、資格取 得を目指さない学生も受講できる。近現代の日本文学や日本文化 に関心のある人にふさわしい科目である。 ◆学びの意義と目標 近現代の主要な文学作品成立の史的背景を理解し、「近代」のあ らゆる時期において「文学」が果たしてきた役割について思考す る。	
評価方法 平常点(出席、必要に応じて随時実施する小課題・小テスト)50% +最終試験50%	
教科書 プリントを配布する	

日本文学史(上代・中古) 秋 週2回 4単位	
担当者：松本 麻子	
講義の目標及び概要	
1. 内容 この講義では、著名な日本文学を「別れ」という観点から取り 上げ解説します。一口に「別れ」といっても、様々な別れがあり ます。人々は古来、恋人や友人、家族と別れる時に、その悲しみ やつらさを文字にして作品に残してきました。表現の仕方は現代 の私達とは違いますが、悲しいと思う気持ち、別れに際してのつ らさ、また別れた後の未練などという感情が記された作品を読む と、今でも深く共感できるはず。奈良時代から平安時代まで、 皆さんが一度は聞いたことのある有名な文学作品を取り上げ読み ます。原則、授業ごとに一つの作品を鑑賞し、文学史全体 の流れを意識しながら講義を進める予定です。 2. カリキュラム上の位置づけ 上代から中古の文学史を学ぶことは、日本文学の古典作品を理 解する上で重要です。 3. 学びの意義と目標 よく知られた日本文学作品を読み、奈良から平安時代までの文 学史の流れを理解することを、到達目標とします。	
評価方法 レポートと出席状況から判断します。授業ごとの感想文:30%、 出席:20%、期末レポート:50%	
教科書 プリントを配布する	

日本文学史(中世・近世)	春 週2回 4単位
担当者：家永 香織	
講義の目標及び概要 (内容) 中世・近世(時代でいうなら鎌倉時代から江戸時代まで)の文学作品を取り上げる。それまで貴族階級がほぼ独占していた文化形成の場に、まず武士階級が、そして町人階級が参入していく時期であり、俗っぽさ・人間臭さ・猥雑さ・生活感など王朝文化には見られない特徴が現れると同時に、王朝文化に対する遥かなるあこがれも見出せる時代である。雅やかな王朝文化とは違ったおもしろさを味わってほしい。 (カリキュラム上の位置づけ) 本学では、日本文学史を上代・中古、中世・近世、近現代の三科目に分けて講義している。その中の一つであり、日本文化を学ぶ上での基礎となる講義である。 (学びの意義と目標) 中世・近世の文学作品から著名な作品、重要な作品を中心に選んで取り上げる。同時に、さほど著名ではなくとも、おもしろく読める作品にも触れる。各々の作品の独自性を明らかにすると同時に、他の作品との関連や、文学史の中でその作品がどのような位置を占めるかといった視点も大切にして読解を進める。多くの作品に触れる中で、日本古典文学がいかに多様で奥深いかを知って欲しい。	
評価方法 出席及び受講態度(40%)・学期末テスト(60%)により評価する。	
教科書 プリントを配布する	

日本文学特殊講義①	秋 週2回 4単位
担当者：家永 香織	
講義の目標及び概要 (内容) 和歌を抜きにして、日本文学を語ることはできない。しかし和歌は難しくわかりにくい、とっつきにくい、と思われがちである。そこで本講義では、和歌単体ではなく、散文(物語・日記・説話など普通の文章)に取り込まれた和歌を取り上げ、和歌が散文の中でどのように機能しているか、という観点で、和歌を読み解いていきたい。平安～鎌倉時代の物語・日記・説話・歌集など11作品を取り上げるので、多様な作品を読む楽しみも感じてもらえると思う。様々な作品を読みながら、和歌のおもしろさを味わって欲しい。 (カリキュラム上の位置づけ) 文学系統の科目。基礎的知識から更に一步進んだ読解を行うが、決して難解な内容ではない。 (学びの意義と目標) たった一首の和歌があることによって、物語の主人公の性格が明らかになったり、場面が劇的に盛り上がりたりすることもある。また、一首の和歌に基づいて、物語や説話が生まれることもある。物語・日記・説話の中で、和歌がどのような役割を果たしているかを読み解くことを目標とする。	
評価方法 出席・授業態度(40%)、学期末テスト(60%)で評価する。	
教科書 プリントを配布する	

日本文学特殊講義②	春 週2回 4単位
担当者：前田 潤	
講義の目標及び概要 ◆天災の発生が、同時代の社会・文学にどのような影響を与えてきたのかについて、多角的に考察する。「東日本大震災」の余波から議論を始め、「関東大震災」および「阪神淡路大震災」の発生が、小説を「書く」ことや「読む」こと、また、新聞雑誌に連載中の小説や各種刊行物にどのような影響を与えたのかをつぶさに検討する。同時に、多くの文学作品の中絶・変貌・誕生と深く関わる、震災直下のメディア状況や、罹災社会の混乱を考察する。「例外状況」と「文学」ソフトという観点から、戦争と文学との関わりについても言及する。なお、授業では映像資料を活用する。 ◆専門領域への知を深化させてゆく契機となる講座である。 ◆小説の言葉が、現実とどのように関わりながら編成されてゆくのかを知ると共に、震災被害の実態や社会・文化への影響、復興の問題点などについても学んでゆく。	
評価方法 出席+毎回提出の小文(50%)、最終試験(50%)。	
教科書 プリントを配布する	

日本文学の中のキリスト教A	春 週1回 2単位
担当者：佐藤 ゆかり	
講義の目標及び概要 1. カリキュラム上の位置付け 日本の近現代文学における「文学とキリスト教」、さらに「文学と宗教」といったテーマについて理解を深める。 2. 目標 (1) 近現代文学を精読するということ。 (2) 近現代文学の基本となる研究方法の習得。 (3) 近現代文学に見られる、作家とキリスト教との関わりへの理解。 3. 内容 講義形式で、キリスト教の影響を受けた作家、芥川龍之介、太宰治、正宗白鳥の小説を採り上げ、キリスト教との関わりについて学ぶ。なお、採り上げる作品は、一部変更する場合もある。	
評価方法 レポート(70%)、授業への参加度(30%)により、総合的に評価する。	
教科書 プリントを配布する	

日本文学の中のキリスト教B	秋 週1回 2単位
担当者：佐藤 ゆかり	
講義の目標及び概要	
<p>1. カリキュラム上の位置付け 日本の近現代文学における「文学とキリスト教」、さらに「文学と宗教」といったテーマについて理解を深める。</p> <p>2. 目標 (1)近現代文学を精読するということ。 (2)近現代文学の基本となる研究方法の習得。 (3)近現代文学に見られる、作家とキリスト教の関わりへの理解。</p> <p>3. 内容 講義形式で、遠藤周作『深い河』を全編読むことを通して、文学とキリスト教の関わりについて学ぶ。</p>	
評価方法	
レポート (70%)、授業への参加度 (30%) により、総合的に評価する。	
教科書	
遠藤周作『深い河』講談社文庫	

日本文化総論A	春 週1回 2単位
担当者：清水 正之	
講義の目標及び概要	
<p>「日本の宗教的心性とキリスト教—カミ・ほとけ・神」という主題で、伝統的な宗教観をとらえるとともに、それとキリスト教(キリシタンおよび近代日本のキリスト教)との関連を考えてみる授業とします。</p> <p>日本の思想史をふりかえると、もともとあった神道的世界(これも外来のものと深く関係しているというみかたもありますが)のうえに、仏教、あるいは儒教をとりいれ、さらに西洋伝来のキリスト教を受容してきました。今わたしたちは、宗教的なものが、またあらためて別の形で重要な意味をもった世界と日本の現実に接しています。現代にいきるわたしたちの宗教的なものとの関わりは、近代以前の社会とは大きく異なりますが、同時にこの社会の宗教的な伝統と決して無縁ではありません。生活の一部にくみこまれ、すでに宗教的なものとして必ずしも自覚しているわけはありませんが、そのような伝統的な宗教観を、一度あらためて対象化し、知的に吟味、あるいは学問的に吟味することは、日本文化を知り、自らの問題として考える重要な意義があるでしょう。</p>	
評価方法	
出席状況、期末レポート、それと3回の小レポートの三つから、総合的に成績評価を行います。	
教科書	
授業の中で指示する	

日本文化特殊講義	春 週2回 4単位
担当者：清水 均	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 文字通り、「文化」を研究対象とすることで、私たちが今どのような世界に生きているのかを検証することを目的とし、更には、そうした現状認識を通じて今後の文化創造、世界創造に私たちがどのように関わっていけるのかということの可能性を模索することを旨とする授業である。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 日本文化学科カリキュラムのいわゆる「五本の柱」の中では「文化系統」に属しており、この系統における応用レベルの講座である。3年生以上が受講可能。</p> <p>3. 学びの意義と目標 現在、世界及び日本は「100年に一度の危機的状況にある」とも言われるが、私たちは既にこれまでの戦後数十年の間にも数々の時代の転換点を経験している。そうした経緯の上に成立している今の世界、更にはこれからの世界を主体的に形成する役割を担う学生諸君には、大学という学びの場で「今を生きる」ための教養と知恵と生きる活力を身に付けてもらいたい。</p>	
評価方法	
<p>(1)出席点:50%</p> <p>(2)最終レポート点:40%</p> <p>(3)随時実施する課題:10%</p>	
教科書	
プリントを配布する	

日本文化入門	秋 週1回 2単位
担当者：寺田 詩麻	
講義の目標及び概要	
<p>(1)世界の芸能のなかでもユニークな位置を占める日本の古典芸能、とくに能・狂言・文楽(人形浄瑠璃)・歌舞伎を中心にとりあげます。</p> <p>・演じられているありさま(芸態)を見てそれぞれの違いの区別がつくこと</p> <p>・よく上演されるいくつかの作品の内容を、映像資料を見ながら理解することを目標とします。</p> <p>(2)日本文化学科の基礎科目群の1つ。1・2年での習得を原則とします。それ以上の学年でも受講することができます。</p> <p>(3)グローバル化する社会の中で必要なのは英語力だけではなく、英語を話すその人の教養だろうと思われれます。内外にわたる仕事をしている日本人が、日本文化について問われて答えられないことが多いと聞きます。また将来的に大学で日本文化を専攻したと自己紹介する場合、伝統芸能について問われる機会が必ずあるでしょう。そうした時のためにこの科目が、あなたが伝統芸能について考える手助けにすこしでもなればよいと思います。</p>	
評価方法	
毎回の出席カードへの感想・疑問点の記入(30%)、観劇会(12月開催予定)についてのレポート(30%)、期末試験(40%)、以上3つの総合で評価します。詳細は第1回のガイダンスで説明します。	
教科書	
プリントを配布する	

乳児保育A	春 秋 週1回 1単位
担当者：岸澤 藤子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>乳児保育とは、3歳未満児を対象とした保育を指す。人の土台を作るこの大切な時期に、私達はどのように子どもと関わったらよいのだろうか。本講義では、3歳までの発達並びに、用語と教育が一体となった保育の具体的な内容を学び、これまでに蓄積された知識、理論、技術を習得していく。なお、具体的に乳児の姿を理解するために、視聴覚教材を利用する。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ</p> <p>保育士資格のための必修科目。 これまでに他科目で学んだことも、「乳児保育」という分野において統合していくことが望まれる。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>乳児保育の社会的背景と歴史並びに現状を知る。乳児の発達、発達を学び、月齢に応じた養護と教育の理解を深める。さらに、健康と安全への配慮を学ぶ。</p>	
評価方法	
受講状況20%、提出物20%、発表20%、筆記試験40%によって算出する。	
教科書	
志村聡子『はじめて学ぶ乳児保育』同文書院	

乳児保育B	春 秋 週1回 1単位
担当者：田村 すゞか	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>3歳未満の子どもを対象として保育にあたるために必要な理論と知識を学ぶ。特に「乳児保育B」では(1)乳児期の子どもの発達と発達及びその援助(2)乳児保育の実践にあたるためのポイント(計画と記録)(3)保護者・保育者・地域との連携の3点を柱として講義を行う。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ</p> <p>保育士資格取得のための必修科目である。「乳児保育A」とは学習領域を分けて講義を行う。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>人生の土台を作る大切な時期にある0～2歳児の心と体の発達を理解し、月齢に応じてその育ちを支える保育者としての基礎を作る。また、様々な発達状況・家庭環境にある乳児に対する関わりなど、実践場面で想定される保育についても具体的に学ぶ。</p>	
評価方法	
受講状況30% レポート20% 筆記試験50%	
教科書	
志村 聡子 編『はじめて学ぶ乳児保育』同文書院	

人間関係論	秋 週2回 4単位
担当者：中嶋 励子	
講義の目標及び概要	
<p>授業内容</p> <p>私達は日頃、さまざまな他者と関わりながら、そして、社会の動きに関わる行動をとりながら生活している。このような他者との関係や社会の動きに関わる行動について、実証的なデータに基づく社会心理分野の研究事例を紹介しながら、授業を進めていく。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 対人関係、コミュニケーション、ストレスとストレス対処、流行の普及過程、リスク認知、災害心理学などについて、社会心理学の基礎知識を習得する。 先行研究事例で用いられている主な研究方法や測定尺度と分析について、基本的な部分を理解する。 	
評価方法	
平常点（授業内で行うディスカッションに対する積極的な取り組み、授業内に提出する小レポート）50%、及び中間・期末レポート50%によって評価を行う。	
教科書	
プリントを配布する	

人間行動学実験実習	春 週1回 1単位
担当者：石川 由美子/井上 知洋	
講義の目標及び概要	
<p>子どものこころや行動に関する心理学的な研究の方法について学ぶことを目標とする。本実習では、特に行動観察法、発話分析法、心理検査法、発達検査法、質問紙法を扱う。各回の始めにそれぞれの基本的な方法について講義を通して学び、その後実習を通してそれらの技法を習得する。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉</p> <p>心理学研究法に関する基礎的な知識と技法を、講義と実習を通して学ぶ。</p> <p>なお本実習は、認定心理士・指定科目のうち基礎科目「c:心理学実験・実習」領域の「人間行動学実験実習」に相当する。</p> <p>〈学びの意義と目標〉</p> <p>心理学研究の技法を学ぶことに加えて、教育や保育の現場で実際に子どもとかかわり合い、行動を観察し、その意味を考え理解するのに役立つ視点を養うことができる。</p>	
評価方法	
授業への参加の程度(出席、実習、発表等:60%)および課題レポート(40%)	
教科書	
授業の中で指示する	

人間福祉総論		春	週2回	4単位
担当者：助川 征雄				
講義の目標及び概要				
<p>人間福祉学科1年生を対象に、人間福祉学について総合的に理解させるための科目である。</p> <p>具体的には、社会福祉の仕組み、歴史と入門的実践理論、専門援助技術、社会福祉各領域別の実践紹介、専門資格取得、さらには、進路選択（就職、進学等）、研究法、図書館等の利用の仕方などについても多面的に取り上げる。</p>				
評価方法				
出席率（50％）と期末・小レポート（50％）で評価。出席を重視する。				
教科書				
プリントを配布する				

人間福祉の探求		春	週1回	2単位
担当者：古谷野 亘				
講義の目標及び概要				
<p>大学院人間福祉学研究科の教員が輪番で教壇に立ち、最先端の研究の成果を紹介する。講義は、人間福祉学研究科が扱う「福祉学分野」「児童学分野」「臨床死生学・スピリチュアルケア分野」の中から1回ごとに異なるテーマで行われる。</p>				
評価方法				
出席点（60％）と期末レポート（40％）。				
教科書				
授業の中で指示する				

な
行